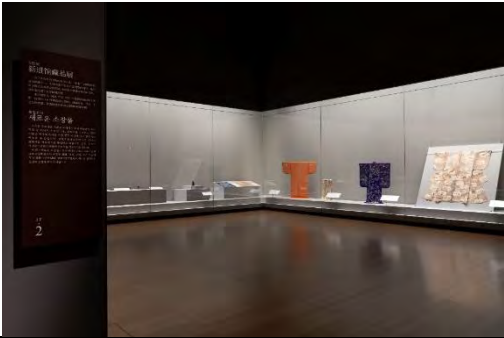


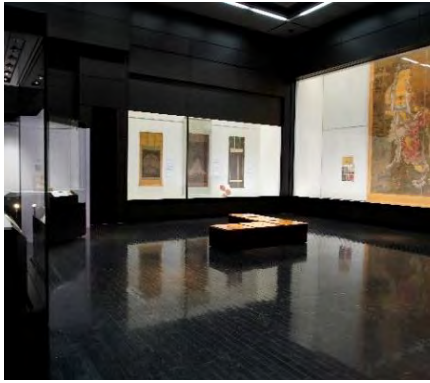
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展								
【年度計画】									
・ I-(2)-① (5館共通) 1)、2)									
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部総務課 皇居三の丸尚蔵館			事業責任者	課長 沖松健次郎 企画室長 山川暁 課長 平石憲良 課長 執行正一 課長 井手真二				
【実績・成果】 (5館共通) ・ 平常展来館者数は1,696,429人と、令和4年度(1,049,083人)を大きく上回った。 (東京国立博物館) ・ 4年度に引き続き、アンケートは来館者に記入依頼を行う形で実施した。また、アンケートの集計結果と自由意見を館内で共有し、改善に努めるとともに、ウェブサイト、館内スタッフに寄せられた意見について、関係部署に共有し、必要に応じて回答や改善を図った。 (京都国立博物館) ・ 平常展開催期間中にアンケートの記入場所を従来よりも目立つ場所に設置し、対面にてアンケートへの回答を呼び掛けるとともに、2次元コードによる電子版アンケートを新たに実施することにより、来館者の記入促進を図った。また、ウェブサイトや口頭にて寄せられたご意見・お問合せを担当部署・担当者間で共有し、必要に応じて回答や改善などの対応を実施した。 (奈良国立博物館) ・ 来館者からの要望に応え、5月16日より、なら仏像館に展示されている当館所蔵品の写真撮影を可能とした。また、解説文を翻訳して読むために、スマートフォンなどで解説文のみを撮影することも可能とした。 ・ 館内に記述式アンケートの記入場所を設け、通年でアンケートを実施した。アンケート結果及びウェブサイトを通じて寄せられた当館への意見・要望は、速やかに関係部署に共有し、改善に努めた。また、アンケートの回収率を上げるため、回答者にはノベルティを贈呈するという施策を行った。 (九州国立博物館) ・ 館内に記述場所を設け、通年でアンケートを実施した。また、アンケート回収率の向上と幅広い層からの意見集約を目的に、記述式に加え、オンラインでのアンケートも実施した。 (皇居三の丸尚蔵館) ・ 開館記念展「皇室のみやびー受け継ぐ美」(11月3日～6年6月23日)及び特別展示「御即位5年・御成婚30年記念 令和の御代を迎えて一天皇皇后両陛下が歩まれた30年」(11月3日～12月24日)を開催した。 ・ 館内スペースが限られる中で、記述式・外国語・ウェブの各種アンケートを実施した。「皇室のみやび展」は第一期・第二期・第三期と異なる展示テーマで開催されているため、来館者の満足度や属性を比較すべく、各期中にアンケートを実施し、その結果を館内で共有し改善に努めた。 ・ 快適な観覧環境の確保のため事前予約制を導入するとともに、当館の収蔵品については著作権のあるものを除き写真撮影を可能とすることで来館者の満足度向上に努めた。									
【補足事項】 (東京国立博物館) ・ アンケートについては、偶数月の第2土曜日に加え、5月18日(木)、9月18日(月・祝)、11月3日(金・祝)の無料開館日に実施した。規則性をもって行うことでアンケート結果の比較、検証に寄与することに努めた。 (京都国立博物館) ・ 来館者の意見や要望を踏まえて、展示室内の案内サイン追加や位置調整を行い、観覧環境の改善に取り組んだ。 (奈良国立博物館) ・ 写真撮影可能な作品の題箋には撮影OKマークを記載し、新たに掲示物を作成した。また、来館者や館内職員から寄せられた意見や要望を踏まえて、掲示物を追加・修正するなど、観覧環境の改善に努めた。 (九州国立博物館) ・ アンケートの回答内容を全館的に共有し、お客様からの要望等に迅速に対応するほか、質問票やウェブサイトから寄せられた問い合わせ等にも対応し、観覧環境の向上に努めた。 (皇居三の丸尚蔵館) ・ 恒常的にアンケートを実施するロビースペースがない中、臨時にアンケートスペースを設けて調査を行うとともに、開館間もない時期であり回収率を向上させる必要があることから、ノベルティ(収蔵品の絵葉書)をアンケート回答の返礼として実施した。 ・ ハローダイヤルや館内スタッフ等に寄せられた来館者の意見について適切に対応し、観覧環境の改善を図った。									
【評価指標】項目		5年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	元	2	3	4
平常展の来館者アンケート満足度									
東京国立博物館		90.4%	85%	B		90.2	85.8	87.9	88.4
京都国立博物館		89.7%	81%	B		79.1	78.5	82.1	85.9
奈良国立博物館		94.7%	92%	B		93.2	94.2	92.1	92.6
九州国立博物館		89.9%	76%	B		77.1	-	81.0	77.0
皇居三の丸尚蔵館		93.6%	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 アンケートについては4館とも目標値を達成し、皇居三の丸尚蔵館についても満足度は高かった。多様な来館者からの意見・要望を知るため、対面式・電子版アンケート・回答者へのノベルティの贈呈等、各館それぞれアンケート回収率の向上に取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に移行した							

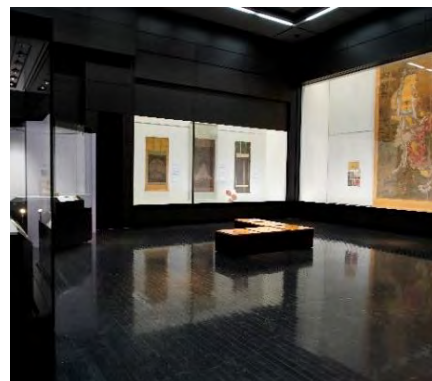
	ことに伴い、日本人の来館者数の増加に加え外国人の来館者も大きく増加した。
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者アンケートの満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。	
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 5年度は、4年度に引き続きアンケート満足度の目標値を達成し、来館者の意見・要望に迅速に対応し観覧環境の改善に努めることができた。また、外国人来館者の増加に対して、展示室内外の多言語対応を進めることで対応することができた。さらに各館においては、アンケート回収率の向上に向けた取り組みを行い、来館者の幅広いニーズを聞き取り、観覧環境に生かす仕組みを作ることができている。 引き続き、様々な来館者の意見・要望に対応していくことで、満足度向上及び来館者数の増加に努めていく。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ① 平常展							
【年度計画】 ・ I-1-(2)-① (5館共通) 2) (東京国立博物館) 1)、2)、3)								
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長 沖松健次郎			
【実績・成果】 計画通りに平常展を開催した。 1) 展示計画に基づき、377回 (展示総件数10,028件) の展示替を実施しながら充実した展示を行えた。 2) テーマ性をもった特集展示24件を実施した。なかでも、本館3室「仏画のなかのやまと絵山水」、本館7室・8室・特別2室「近世のやまと絵—王朝美の伝統と継承—」は、平成館特別展「やまと絵—受け継がれる王朝の美—」の開催にあわせた平常展における特集展示である。本館2階「日本美術の流れ」の時代を追った展示構成を活かしつつ、特別展と連動した特集を企画することにより、来館者にとって充実した鑑賞機会を提供することができた。 3) リニューアル工事が完了した本館特別1室・特別2室において「令和4年度新収品」を開催し、文化財の収集ならびにその意義と文化に対する理解を深める場を設けた。 また、日本文化と展示内容への理解促進を目的に、引き続き本館4室「茶の美術」と9室「能と歌舞伎」にデジタルサイネージを設置し、両室の展示作品を実際に使用した場合のイメージがわかる映像を上映した。 4) 日本文化や歴史への理解促進を図るため、本館4室「茶の美術」リニューアル工事を経て、映像・静止画像を併用したデジタルサイネージ解説を複数導入した。文化財展示と文字のみの解説では伝わりづらい茶の湯の文化的背景を、視覚的に紹介することができた。 5) 東洋館の題箋を、本館で先行導入していた新デザインへと移行することで、鑑賞環境の向上に寄与することができた。								
								
特集「近世のやまと絵—王朝美の伝統と継承—」展示風景					本館4室「茶の美術」デジタルサイネージ解説			
【補足事項】 ・ 展示環境を改善すべく、本館4室の全面改修を実施した。 ・ 本館13室、金工・刀剣・陶磁ケースのうち6台の開閉機工について電動化のための工事を実施し、展示作業の利便性が向上した。 ・ 老朽化していた本館5、6室の甲冑ケース (行灯) 2台を新規製作し、交換した。								
	5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4
平常展の来館者数	961,328人	-	-		1,030,652	166,639	211,052	625,235
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 来館者数は特に外国人観光客の増加が著しく、全体としてもコロナ禍前の状況に近づきつつある。また、計画したすべての特集展示を実施し、所蔵品の新たな魅力と価値を発信することができた。また、限られた予算ではあったが、老朽化したケースの交換や展示室の改修を積極的に推進し、展示室の環境改善につとめることができた。さらに、東洋館における題箋デザインの更新などを行うことで、鑑賞環境の向上に寄与することができた。 また、トーハク新時代プランに基づく映像コンテンツの活用も引き続き実行できているため、B評価とした。						
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 特色ある特集展示の実施を行うなどして、前年度より多くの来館者を迎えることができたことを高く評価したい。また、展示空間の環境改善やケースの老朽化、サイン・看板類の再整備などの課題にむけて検討を始めており、6年度以降はそれらの解決に向けて議論を重ね、より魅力ある展示の実現に向けて努力していく。						

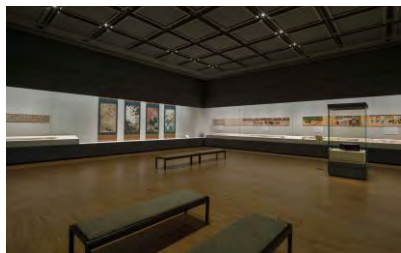
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信														
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展														
【年度計画】 ・ I-1-(2)-① (5館共通) 2) (京都国立博物館) 1)、2)															
担当部課	学芸部			事業責任者	企画室長 山川暁										
【実績・成果】 (京都国立博物館) 1) 特別展前後の準備・撤収期間を考慮し、名品ギャラリー（平常展示）期間を設定した。展示替作業にあわせて、平成知新館内の一部の展示室のみを開室する部分開館も実施し、柔軟に対応した。また、平常展来館者数は、140,562人であった。また、展示替件数は855件であった。 2) 7件の特集展示を開催し、当初年度計画よりも特集展示を2件多く開催できた（「茶の湯の道具 茶碗」、「泉穴師神社の神像」）。															
【補足事項】 2) ・すべての特集展示でジュニア版を含む音声ガイドを実施した。 ・特集展示「新収品展」を除き関連土曜講座を実施したことで、来館者の展示に関する理解の向上につながった。 ・特集展示「新収品展」は、3・4年にかけて当館が収集した絵画・書跡・工芸・彫刻のなかから、約40点を展示した。期間中の来館者数は22,996人であった。 ・特集展示「茶の湯の道具 茶碗」は、名碗をはじめとする数々の茶碗を、唐物茶碗、高麗茶碗、和物茶碗に分け、その種類や個性、それぞれの茶碗の由来や逸話などをまじえて紹介した。「茶碗」をキーワードに、関西の茶に関わる美術館と博物館9館の連携企画が立ち上がったことから、当初年度計画には記載していなかったが急遽開催した。連携企画の効果もあり、期間中の来館者数は59,099人とほかの特集に比べて来館者が多くなった。 ・特集展示「日中 書の名品」は、一流の書き手によって日本・中国で生まれ伝えられてきた書の名品、とくに漢字で記された作品を展示した。期間中の来館者数は31,879人であった。 ・新春特集展示「辰づくしー干支を愛でー」は、新春恒例の干支にちなんだ展示として、様々な龍をモチーフとした作品を展示。ファミリー向け展示として、小学校高学年以上向けを想定したやさしい解説文や、小学校低学年以上を想定したワークシート（多言語）を作成し、幅広い世代に向けた展示とした。期間中の来館者数は35,057人であった。 ・特集展示「弥生時代青銅の祀り」は、青銅器の祀りに焦点をあて、日本列島独自の青銅器文化の展開と多様性を紹介。期間中の来館者数は26,706人であった。 ・修理完成記念 特集展示「泉穴師神社の神像」は、4年をかけた修理が完成したことを記念し、泉穴師神社に伝わる神像26軀を展示。同社・泉大津市からの依頼を受けて、当初年度計画には記載していなかったが急遽開催。期間中の来館者数は46,265人であった。 ・特集展示「雛まつりと人形ー古今雛の東西ー」は、現在の雛人形の原形となったとされる「古今雛」を取り上げ、江戸から上方への流行の諸相を紹介。期間中の来館者数は41,717人であった。															
「新収品展」 展示風景															
															
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4							
平常展の来館者数	140,562人	-	-		158,664	18,941	35,440	56,369							
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 急遽開催した特集展示2件を含め、数多くの特集展示を開催できたことにより、年度計画以上の展示を企画できたと考えるため、Aと評価する。													
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。															
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 5年度は、当初予定していた特集展示に加え、関西圏の文化促進につながる地域連携を伴う特集展示を2件多く開催できた。また、収蔵文化財の名品の展示に際して、多言語での題箋提出、ジュニア版を含む音声ガイドの貸出、ワークシートの配布などを実施し、幅広く来館者の増加を図ることができたこと、アンケート満足度も目標値を大きく超えていること、年度計画策定時に想定していた件数（年間5本）を大きく上回る件数の特集展示を開催できたことを踏まえ中期計画を予定以上に遂行できていると判断した。													

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展								
【年度計画】									
・ I-1-(2)-① (奈良国立博物館) 1)、2)									
担当部課	学芸部			事業責任者	部長 吉澤悟				
【実績・成果】									
1) 下記のとおり名品展を実施し、特集展示を1件開催した。(展示総件数：440件、展示替回数：10回)									
・ 名品展「珠玉の仏たち」 なら仏像館 4月1日～6年3月31日									
・ 名品展「中国古代青銅器」 青銅器館 4月1日～6年3月31日									
・ 名品展「珠玉の仏教美術」 西新館 4月22日～6月4日、12月9日～6年1月14日、6年2月10日～3月17日									
・ 特集展示「新たに修理された文化財」 西新館 12月19日～6年1月14日									
2) 下記のとおり特別陳列を開催した。									
・ 特別陳列「おん祭りと春日信仰の美術―特集 春日の御巫―」 西新館 6年12月9日～6年1月14日									
入館者数 22,442 人									
・ 特別陳列「お水取り」 西新館 6年2月10日～3月17日									
入館者数 30,338 人									
【補足事項】									
・ なら仏像館における名品展「珠玉の仏たち」では、常時90件以上の仏像を公開した(展示総件数146件)。5年10月24日からは、特別公開として、奈良・普門院本尊の重要文化財 不動明王坐像を公開し、同像の新撮写真および解説文を掲載するリーフレットを作成して来場者に配布した(10,000部)。									
・ 名品展「珠玉の仏教美術」では、絵画・書跡・工芸・考古の館蔵・寄託品を公開した(展示総件数164件)。									
・ なら仏像館において、仏像鑑賞ガイド「かたちで見分ける！仏像4つのグループ」を来場者に配布(80,000部)。仏像の主な4つのグループ「如来」「菩薩」「明王」「天」の特徴とその見分け方を、イラストを交えてわかりやすく紹介し、SNS上で“8万いいね”を獲得するなど多くの好評を得た。									
									
					特別公開「奈良・普門院本尊 不動明王坐像」リーフレット				
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4
平常展の来館者数		181,494人	-	-		160,869	43,262	52,178	116,116
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 様々な来館者層が仏教美術について理解を深め、楽しめるように、毎年恒例の名品展やおん祭展、新たに修理された文化財展に加え、奈良・普門院不動堂修理の機会を捉えて本尊不動明王坐像の特別公開を行うなど、多彩な名品展・特集展示を実施した。名品展・特別陳列の来館者総数は、4年度から65,378名増加したため着実に計画を実施している。							
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 5年度も仏教美術の専門館として最新の調査研究を盛り込んだ数々の特色のある名品展・特集展示を開催した。仏像館において仏像鑑賞ガイドを配布し、イラストを多用したキャプションを充実させるなど、広い客層への理解促進を計った結果、来場者から非常に高い評価を得ることができた。名品展・特別陳列の総来場者数もコロナ禍前に近い水準まで回復した。以上のことより中期計画を順調に遂行している。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展							
【年度計画】								
・(5館共通)2)								
・I-1-(2)-①(九州国立博物館)1)、2)								
担当部課	学芸部企画課			事業責任者	課長 伊藤信二			
(実績・成果)								
2) 前中期目標の実績の年度平均以上を目指して、平常展は展示替えを 1833 件行い、来館者数は 287,160 人であった。(九州国立博物館)								
1) 計画に従って特集展示・特別公開を実施し、研究成果を公開するとともに、図録の刊行、講演会の実施等により、成果の普及を図った。 干支や花など折々の季節にあったテーマから、既存の分野や展示スペースにとらわれない文化財の新しい楽しみ方を示した。								
2) 実物展示に加えてレプリカや再現文化財も有効に活用しながら、従来の展示とは違った切り口から文化財への関心を喚起し、鑑賞の幅を広げる取り組みを行った。								
【補足事項】								
・特集展示「誕生250年記念 秋田蘭画ことはじめーそれは『解体新書』から始まったー」は秋田市立千秋美術館などの名品によって、秋田藩の武士が描いた阿蘭陀（オランダ）風の絵画「秋田蘭画」を紹介した。リーフレットを作成し、無料で配布した。								
・特集展示「麗しき祈りの美ー高麗・朝鮮時代の仏教美術ー」では、11～16世紀におよぶ高麗・朝鮮時代の仏教美術に光を当て、図録も作成した。会場は日本だけでなく、韓国をはじめとする外国からの来館者で連日賑わい、図録は会期中に2回も増刷するほどの売れ行きだった。								
・新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」では、徳川三代将軍家光の長女の婚礼調度である「初音の調度」から、国宝3件点（「櫛箱」、「小角赤手箱」、「手箱」）とともに、南部家ゆかりの大揃いの婚礼調度も展示した。								
・特集展示「日本刀の美ー北崎徹郎の愛刀ー」は、4年度に当館へ寄贈された刀剣31件を一堂に揃えて公開した。図録も好評で増刷した。								
・「～Touch the History～さわって体験 本物のひみつ」は4年度に引き続き、実物とともにレプリカや再現文化財を露出展示することで、触覚も含めた鑑賞を可能にし、ガラスケース越しの観察やキャプション解説からだけでは分からない作品の魅力を発信した。障がいの有無を問わずに多様な来館者が展示を楽しめるよう、音声・点字・手話動画での解説を用意した。								
・きゅーはく新春ツアー「龍をさがせ!」、きゅーはく春のツアー「お花をさがそう!」はクイズラリーやSNSを使ったイベントなど参加型のコンテンツを併用することで、文化交流展(平常展)の新たな楽しみ方を提案し、子どもから大人まで幅広い層の来館者にお楽しみいただけた。 このほか、文化交流展示室では従来の音声ガイド「ナビレンスdeきゅーはく」に加えて、4年度に開始した文字や写真、手話などでガイドを楽しめる「ナビレンスGo!deきゅーはく」の手話ガイドを16件増やした。					特集展示「麗しき祈りの美」の展示会場			
	5年度実績	目標値	評定	経年変化	元	2	3	4
平常展の来館者数	287,160人	-	-		348,563	81,230	104,898	239,282
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 来館者数が4年度から約4.8万人増えた。計画に従ってさまざまな特集展示を行ったほか、例えば「～Touch the History～さわって体験 本物のひみつ」では音声・点字・手話動画で解説を提供するなど、障がいの有無や年齢層の違いにかかわらず、多様な来館者が楽しめる展示を実施した。新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行したことで国境を越えた移動もしやすくなった結果、外国の来館者も増え、特に特集展示「麗しき祈りの美ー高麗・朝鮮時代の仏教美術ー」は具体的な外国人来館者数は不明ながら、展示室では連日韓国語での会話が聞かれるなど、国際的にも高い注目を得ることができた。						
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 他機関との研究協力体制の推進、寄贈案件の促進、多様な来館者層を念頭に置いた展示企画などに対応した事業展開により、4年度より来館者数が増えると共にアンケートの満足度も上がった。新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行となった事も好機となり、団体や海外からの来館者も増加した。以上の通り、中期計画を予定以上に遂行できたと判断した。なお6年度は、特別展示室の照明を蛍光灯からLEDに転換するため、当館で特別展が9か月間開催されないことから、例年以上に特集展示やきゅーはくツアーなどで平常展を盛り上げる取組を通して、来館者数、満足度を向上させたい。						



特集展示「麗しき祈りの美」の展示会場

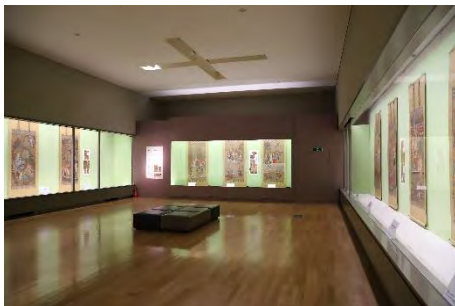
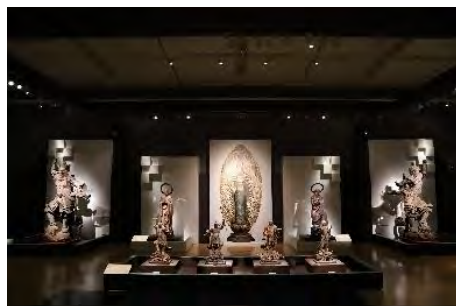
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展							
【年度計画】								
・ I-1-(2)-① (5館共通)、(皇居三の丸尚蔵館) 1)								
担当部課	学芸部展示・普及課			事業責任者	課長 戸田浩之			
【実績・成果】								
・ 開館記念展「皇室のみやびー受け継ぐ美」第1期「三の丸尚蔵館の国宝」(11月3日～6年6月23日)								
・ 特別展示「御即位5年・御成婚30年記念 令和の御代を迎えて一天皇皇后両陛下が歩まれた30年」(11月3日～12月24日)：展示期間中の来館者数 65,673人								
・ 開館記念展「皇室のみやびー受け継ぐ美」第2期「近代皇室を彩る技と美」(6年1月4日～3月3日)：展示期間中の来館者数 31,764人								
・ 開館記念展「皇室のみやびー受け継ぐ美」第3期「近世の御所を飾った品々」(6年3月12日～5月12日)：展示期間中の来館者数 (3月31日まで) 16,897人								
【補足事項】								
・ 計画通り、開館記念展「皇室のみやびー受け継ぐ美」(11月3日～6年6月23日)及び特別展示「御即位5年・御成婚30年記念 令和の御代を迎えて一天皇皇后両陛下が歩まれた30年」(11月3日～12月24日)を開催した。								
・ 快適な観覧環境保持のため事前予約制としたが、開幕から連日予約枠が完売の状況が続くも、アンケート結果では落ち着いた環境で鑑賞できたとの評価や、展示内容に対する高い満足感ならびにスタッフの接客・接遇におけるホスピタリティの高さへの好意的な意見が多数を占めた。								
・ 展示室内には、プロジェクターを用いて収蔵品の概要や背景を理解しやすいよう映像で補足を行った。特に日本文化に馴染みの薄い来館者にも皇室の文化が伝わりやすいよう、皇室の家系図や鑑賞ガイドを配置し、展示の理解促進を図った。								
・ 子供向けのワークシートや、外国人向けの主要作品の詳細な作品解説リーフレットなどを配布した。								
・ 「皇室のみやび」展の通期の図録とは別に、第2期・第3期では、各期それぞれの展示作品がすべて掲載された小冊子を制作・販売し、来館者満足度の向上と自己収入の確保を図った。また、当館の収蔵品は、著作権のあるものを除き、原則すべて写真撮影可能とし、4言語(日・英・中・韓)で題箋を整備するなど来館者の満足度向上を図った。								
 特別展示「令和の御代を迎えて」展示風景  開館記念展「皇室のみやび」展示風景								
	5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4
平常展の来館者数	114,334人	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：A		設置から開館まで1カ月という短い期間の中で、開館記念展の企画および宮内庁の特別協力を得た両陛下の特別展示を開催し、事前予約枠はほぼ完売の状況となり、94.3%の満足度を得た。第2期においても満足度は93.0%と高い評価を継続して得たことは、A評価に相当すると判断した。						
【中期計画記載事項】								
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。								
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：B		8年度の全館開館まで、工事中のなか一部開館の状況が続くが、当館の特色を生かした魅力的な展覧会を継続して開催する計画である。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展								
【年度計画】									
・ I-1-(2)-②-1) (4館共通) ア、イ									
担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課			事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 原田あゆみ				
【実績・成果】									
ア 来館者への満足度調査を実施し、集計結果を速やかに関係部署で共有し、改善に努めた。従来通りアンケート結果は、当館のウェブサイトで公開すると共に、質問や意見などを提出された来館者には回答を行った。									
イ 4年度に引き続き、入館に当たっては原則事前予約不要とした。ただし、特定の特別展では、想定来館者数に応じ、オンライン等による日時指定制を導入した。									
【補足事項】									
・展示室内の混雑が予想された「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」では、金・土曜日の開館時間延長を実施したほか、土・日・祝日のみ日時指定予約制を導入した。									
・「本阿弥光悦の大宇宙」では、共催者のNHKグループとの協働により、展示内容と連動した8K文化財「舟橋蒔絵硯箱」映像を制作して会場内で上映し、リアルとバーチャルが融合した新たな展示手法を開拓した。									
【評価指数】項目		5年度実績	目標値	評価		元	2	3	4
特別展の来館者アンケート満足度		90.1%	86%	B		86.6	85.5	91.0	83.9
東福寺		89.2%	－	－		－	－	－	－
古代メキシコ		90.4%	－	－		－	－	－	－
京都・南山城の仏像		89.7%	－	－		－	－	－	－
やまと絵―受け継がれる王朝の美―		92.2%	－	－		－	－	－	－
横尾忠則 寒山百得		89.3%	－	－		－	－	－	－
本阿弥光悦の大宇宙		90.0%	－	－		－	－	－	－
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価：A		本年度中に実施した特別展の満足度については、質量ともに優れた展示内容と展示手法、さらに安全で快適な展示環境を心掛けた相乗効果により、各展覧会とも目標値を上回る非常に高い満足度を達成することができ、目標値を超える結果が得られたと考えられることからA評価とした。 その中でもメキシコ文化省及びメキシコ国立人類学歴史研究所の企画協力を得て開催した「古代メキシコ―マヤ、アステカ、テオティワカン」及び、30年ぶりの大規模なやまと絵の展覧会として開催した「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」では、目標値を超える満足度となった。展示内容の充実に加え、「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」では金・土曜日の開館時間延長を実施したことなど、来館者がより来館しやすい運営に努めたことが、目標達成につながったと考える。							
【中期計画記載事項】									
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。									
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。									
(東京国立博物館) 年3～4回程度									
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指すし、常に展示内容等の改善を図る。									
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価：B		今後はさらに質が高く、かつ来館者のニーズに合った企画や運営を検討していくことに加え、より多くの方が来館しやすい柔軟な入館方法の検討や、来館者サービスの一環として休憩スペースを十分確保した展示・会場構成を検討していく。							

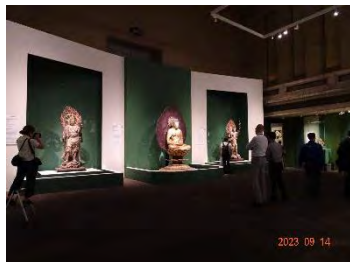
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展								
【年度計画】 ・ I-1-(2)-②-1) (4館共通) ア、イ									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 森考平 企画室長 山川暁						
【実績・成果】 ア 来館者へのアンケート調査を実施した。5年度より2次元コードによる電子版アンケートを取り入れ、幅広い層からのアンケート回収を試みた。 イ 新型コロナウイルス感染症予防のため、4年度に引き続き、来館時の注意事項を多言語（日・英・中・韓）やピクトグラムを活用して周知し、安心して観覧できる環境を設定した。 ○親鸞聖人生誕850年特別展「親鸞—生涯と名宝」 ・親鸞が夢告を受けたとされる六角堂を模した展示台での親鸞聖人坐像の展示や、一展示室内で名号と影像のみを象徴的に見せる展示など、親鸞の生涯を印象づけやすいように展示空間を工夫した。 ○特別展「東福寺」 ・展示室内のフォトスポットを兼ねた東福寺の旧本尊の露出展示や、修理後初公開となった五百羅漢図の解説漫画を伴う全幅公開など、東福寺の所蔵する名品を身近に感じるように展示することができた。									
【補足事項】  「親鸞」展 展示風景  「東福寺」展 展示風景									
【定量的評価】 項目		5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4
特別展の来館者アンケート満足度		89.4%	82%	B		80.6	73.9	80.5	77.3
親鸞 生涯と名宝		90.3%	—	—		—	—	—	—
東福寺		88.5%	—	—		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 4年度に引き続き早朝開館を実施し観覧機会の拡大に努めた結果、来館者数は4年度を大きく上回った。アンケート調査による来館者満足度調査では、電子版アンケートを新たに取り入れたことで、来館者の多様なニーズを調べることができた。また、満足度も、4年度より上がり、目標値を上回った。来館者数の増加、アンケートについての新しい試み、満足度の目標値達成状況を踏まえ、年度計画を遂行できたと判断した。							
【中期計画記載事項】 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 （京都国立博物館）年1～2回程度 なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 各展覧会において、良好な観覧環境を保ちつつ、より見やすく分かりやすく、没入感をもって作品を鑑賞できる環境を提供することができた。アンケート調査による来館者満足度調査では、4年度より満足度は上がっており、6年度においても来館者の意見・要望を参考に、満足度の向上に努めていく。以上をもって、中期計画に則って特別展を開催できたと判断したことから、全体ではBと評価する。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展							
【年度計画】								
・ I-1-(2)-②-1) (4館共通) ア、イ								
担当部課	総務課			事業責任者	課長 平石憲良			
【実績・成果】								
(4館共通)								
ア 館内に設置した記述式アンケートや対面アンケートの集計結果、並びにウェブサイトを通じて寄せられた意見・要望を速やかに関係部署で共有し、改善に努めた。								
イ 定期的に接遇スタッフの打ち合わせを実施し、来館者からの意見・要望や現場運営で気づいた点を共有し意見交換を図ることで、よりよい展覧会運営ができるよう努力した。								
【補足事項】								
・ 4年度に引き続き、特別展アンケートの回収率を上げるため、回答者にはノベルティを贈呈するという施策を行った。その結果、3年度の回収率が0.6%、4年度の回収率が1.6%だったところ、3%まで向上させることができた。また、アンケート満足度も97%と極めて高い結果となった。さらに、特別展「聖地 南山城」ではボランティアスタッフによる対面アンケートを4言語（日、英、中、韓）で実施し、日本人のみならず外国人来館者からの意見も得ることができた。								
								
特別展「聖地 南山城」対面アンケートの様子								
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	評定	経年変化	元	2	3	4
特別展の来館者アンケート満足度	97.0%	89%	B		91.4	91.1	93.3	92.6
聖地 南山城	97.4%	－	－		－	－	－	－
第75回 正倉院展	96.5%	－	－		－	－	－	－
【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 アンケート回答者にはノベルティを贈呈するという施策に加え、新型コロナウイルスによって中止していたボランティアスタッフによる対面アンケートを再開したことで、回収率を向上させることができた。また、来館者から寄せられた意見・要望を速やかに関係部署に共有し適宜改善に努めることで、目標値を上回る高い満足度を維持することができた。以上の理由から、A評価とした。							
【中期計画記載事項】 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 (奈良国立博物館) 年2～3回程度 なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 5年度に開催した特別展における来館者満足度は、3、4年度に引き続き、極めて高い数値となり、中期計画を達成できる見込みである。また、回答者に対してノベルティを贈呈するという施策を行うことによって回収率を向上させることができた点は、6年度以降、より質の高い展示内容・展覧環境を実施する上での基盤となるため、高く評価できる。以上の理由により、A評価とした。 今後もアンケートの回収率を向上させるとともに、来館者の意見・要望を参考に、特別展における満足度の向上に努めていく。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展								
【年度計画】									
・ I-1-(2)-②-1) (4 館共通) ア、イ									
担当部課	学芸部企画課 総務課			事業責任者	課長 伊藤信二 課長 執行正一				
【実績・成果】									
・ 特別展「アール・ヌーヴォーのガラス」では94.2%の満足度を得た。ガラスの歴史の概観を序章としつつ、長野県諏訪市の北澤美術館が誇るガラス作品から、アール・ヌーヴォーを牽引したエミール・ガレ、ドーム兄弟の代表作を厳選し紹介した本展は、ガラスの伝播やジャポニスムという文化交流の点から九州国立博物館の展示方針にも適うもので、また当館における初のヨーロッパ工芸の本格的な展覧会ということもあって好評を得た。 ・ 特別展「憧れの東洋陶磁」では91.9%の満足度を得た。本展は中国、韓国の陶磁器の世界的コレクションである大阪市立東洋陶磁美術館所蔵品の中から厳選し展観したもので、日本に所在する中国、韓国の陶磁器の代表作ともいふべき名品をまとめた形で観覧する九州ではかつてない企画となった。文化財活用センターの支援を得て実施した体験型ディスプレイ「ふれる、まわせる」も観覧者の多くが体験するなど、全体に高い満足度を得た。 ・ 特別展「古代メキシコ」では93.1%の満足度を得た。東京国立博物館からの巡回展で、最新の学術的、考古学的成果を存分に反映した本展は、メキシコ本国に所在する同国の古代文明の精華が初めて日本で公開される機会として、東京展に引き続いて大きな反響と多数の入場者を得た。また当館では特別展示室の広さや構造を十分に活かした展示ディスプレイにより魅力的な展示空間を演出し、高い満足度となった。 ・ 特別展「長沢芦雪」においては93.6%の満足度を得た。近年「奇想の絵師」として人気を博している長沢芦雪の、九州初の本格的回顧展であり、芦雪の代表的作品を数多く紹介したこと、また同時代に活躍した天才絵師たちの名品も併せて紹介したことで、多くの来館者と非常に高い満足度を獲得した。									
【補足事項】									
【定量的評価】 項目		5年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	元	2	3	4
特別展の来館者アンケート満足度		93.2%	87%	B		84.0	89.2	89.2	89.0
アール・ヌーヴォーのガラス		94.2%	－	－		－	－	－	－
憧れの東洋陶磁		91.9%	－	－		－	－	－	－
古代メキシコ		93.1%	－	－		－	－	－	－
長沢芦雪		93.6%	－	－		－	－	－	－
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 当館の独自性を反映したテーマ設定やディスプレイの工夫、分かり易いグラフィックパネル、各種イベントの開催などに取り組み、全ての特別展において90%を超える極めて高い満足度を得た。この実績から年度計画を上回る成果を達成できたとし、A 評価とした。							
【中期計画記載事項】									
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 (九州国立博物館) 年2～3回程度 なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 年度通算では目標値を越える満足度を得ており、中期計画に基づいて着実に事業推進が出来ているため、左記の評価とした。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】			
ア 特別展「東福寺」(3月7日～5月7日)(56日間) (目標来館者数8万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課特別展室研究員 高橋真作
【実績】			
展覧会名	特別展「東福寺」		
会 期	3月7日(火)～5月7日(日)(56日間)		
会 場	東京国立博物館 平成館 特別展示室		
主 催	東京国立博物館、大本山東福寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション、文化庁		
作品件数	157件(うち国宝7件、うち重要文化財87件)		
来館者数	117,489人(目標値8万人、達成率146.9%)		
入場料金	一般 2,100円、大学生 1,300円、高校生 900円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度89.2%		
告知ポスター			
【成果】			
企画構成 展示作品	京都を代表する禅寺の一つである東福寺の寺宝をまとめて公開する初の機会となった展覧会。5章構成により、草創以来の東福寺の歴史を跡付けるとともに、室町時代に活躍した絵仏師・明兆による「五百羅漢図」をはじめ、巨大伽藍にふさわしい特大サイズの仏像や書画類を一堂に展覧し、大陸との交流を通して花開いた禅宗文化の諸相を幅広く紹介した。		
学術的意義	これまで未紹介の優品を含め、全国の禅宗寺院のなかでも屈指の質と量と誇る東福寺の文化財を網羅的に展覧し、今後の禅宗美術研究の進展に大きく寄与した。とりわけ、14年にわたる修理を経て現存全幅が初公開された明兆筆「五百羅漢図」については、本展の準備過程で明らかとなった数多くの新知見を提示するとともに、4コマ漫画キャプションなどの新たな展示手法についても開拓した。		
教育普及	ジュニアガイドを編集し、関東近県の小学校および会場にて、49,736部を配布した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：3月6日、4月10日(計178名出席)。ポスター・チラシ制作、DM発送実施。交通広告：JR山手線ボード22駅22面、東京メトロB1ポスター駅貼り12駅16面、東京メトロ出口広告(上野・新宿・銀座駅)、京王電鉄ポスター駅貼り計100枚ほか。新聞：読売新聞(全国版)社告6回ほか。テレビ：NHK「日曜美術館」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、テレビ東京系「新美の巨人たち」、テレビ東京系「出沒!アド街ック天国」で放映。雑誌：「芸術新潮」「美術の窓」「サライ」「和楽」「日経おとなのOFF別冊 2022年絶対見逃せない美術展」「大人の休日倶楽部」「大人が観たい美術展2022」「月刊メディカルクオール」等で掲載。また、展覧会公式サイト・SNSなどで広報を実施。		
補 足	  展示風景 (第3章) 展示風景 (第5章)		
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	89.2%	86%	
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定：A	日本文化においても重要な位置を占める東福寺の寺宝を網羅的に紹介することで、海外交流を通じて発展した禅宗美術の諸相について理解を深めることができた。また明兆筆「五百羅漢図」に関する4コマ漫画キャプションの採用など、来館者への分かりやすさを重視した新たな展示手法を構築し、来館者アンケートでは満足度89.2%という評価を得ることができた。		

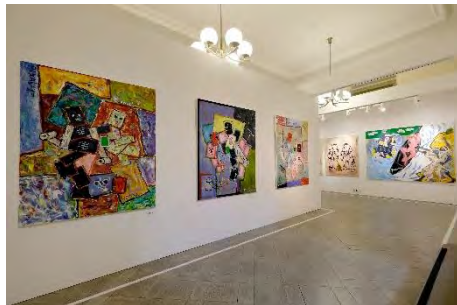
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】 イ 特別展「古代メキシコ マヤ、アステカ、テオティワカン」(6月16日～9月3日)(70日間) (目標来館者数6万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課考古室長 井出浩正
【実績】			
展覧会名	特別展「古代メキシコ マヤ、アステカ、テオティワカン」		
会 期	6月16日(金)～9月3日(日)(70日間)		
会 場	東京国立博物館 平成館 特別展示室		
主 催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社		
作品件数	141件		
来館者数	330,013人(目標値6万人、達成率550%)		
入場料金	一般2,200円、大学生1,400円、高校生1,000円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度90.4%		
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】 ウ 浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展「京都・南山城の仏像」(9月16日～11月12日)(49日間) (目標来館者数4万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室 研究員 丸山士郎
【実績】			 告知ポスター
展覧会名	浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展「京都・南山城の仏像」		
会 期	9月16日(土)～11月12日(日)(49日間)		
会 場	東京国立博物館 本館 特別5室		
主 催	東京国立博物館、日本経済新聞社、テレビ東京、BSテレビ東京		
作品件数	18件(うち国宝3件、重要文化財12件)		
来館者数	79,567人(目標値4万人、達成率198.9%)		
入場料金	一般：1,500円、大学生：800円、高校生：500円		
アンケート結果	満足度89.7%		
【成果】			
企画構成 展示作品	「南山城」と呼ばれる京都府の最南部、木津川流域は独自の仏教文化が展開し、多くの貴重な仏像が伝わる。とくに浄瑠璃寺の九体阿弥陀は現存する唯一の群像として知られ、また海住山寺の檀像、禅定寺の十一面観音菩薩立像など、大寺院や中央貴族と深く関わる同地域ならではの魅力にあふれている。本展では浄瑠璃寺九体阿弥陀の修理完成を記念し、南山城に伝わる国宝3件、重要文化財12件を含む18件の仏像を展示した。		
学術的意義	京都府南部の南山城地域の平安時代彫刻の名作を中心に展示した。京都と奈良の間に位置するこの地に伝わる仏像の造形や形式、制作背景に両者の影響が反映されていることなどを解説し、仏教史や彫刻史におけるこの地の特性を示すことができた。本展は浄瑠璃寺九体阿弥陀の5ヵ年に及ぶ修理完成を記念して開催されるもので、修理の過程や内容を写真パネルで紹介し、文化財修理や保存の重要性を紹介することができた。また出品作品のX線CT調査を実施し、今後の研究資料の作成を行うこともできた。		
教育普及	・記念講演会「南山城の仏像の世界」を9/28に開催し、302人が参加した。 ・ボランティア研修を10/5に開催し、65人が参加した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：9月15日(86名出席)。ポスター・チラシ制作、DM発送実施。交通広告：JR東日本主要駅ホーム上ベンチ30駅30面(SWボード)、東京メトロ主要17駅20面(大型セットボード)ほか。新聞：日本経済新聞朝刊「日経style」にて5段広告ほか。テレビ：BSテレビ東京「日経ニュース プラス9」、テレビ東京「よるパ!」、NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」、テレビ東京「みうらじゅん&いとうせいこうの仏像のおもしろい世界」、BSテレビ東京「みうらじゅん&いとうせいこう&横山由衣 今すぐ会いに行ける国宝の仏像in京都・南山城」で放映。雑誌：「芸術新潮」「月刊 京都」「モノマガジン」「美術の窓」「週刊現代」「週刊新潮」「和楽」「家庭画報」「Discover Japan」「日経おとなのOFF」等で掲載。また、展覧会公式サイト・SNSなどで広報を実施。		
補 足	 展示風景 展示風景		
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値
来館者アンケート満足度		89.7%	86%
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 南山城の主要な仏像を集中して鑑賞できる本展は、来館者アンケート結果でも約7割が50代以下となり、若年～中高年層の来場を取り込む広報戦略が成功した。来館者アンケートでも満足度が約9割と高い評価を得るとともに、入館者数も目標の約2倍となり、同地域の認知度を上げること大きく貢献した。この成果は今後の「南山城」関係の展示でも生きてくるものと考えられる。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】			
エ 特別展「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」(10月11日～12月3日)(48日間) (目標来館者数8万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課絵画彫刻室長 土屋貴裕
【実績】			 告知ポスター
展覧会名	特別展「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」		
会 期	10月11日(水)～12月3日(日)(48日間)		
会 場	東京国立博物館 平成館 特別展示室		
主 催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社		
作品件数	245件(うち国宝53件、うち重要文化財127件)		
来館者数	162,104人(目標値8万人、達成率202.6%)		
入場料金	一般 2,100円、大学生 1,300円、高校生 900円		
アンケート結果	満足度92.2%		
【成果】			
企画構成 展示作品	本展は、日本絵画の中心的存在である「やまと絵」をテーマとするもので、序章「伝統と革新―やまと絵の変遷―」、第1章「やまと絵の成立―平安時代―」、第2章「やまと絵の新様―鎌倉時代―」、第3章「やまと絵の成熟―南北朝・室町時代―」、第4章「宮廷絵所の系譜」、終章「やまと絵と四季―受け継がれる王朝の美―」の展示構成により、平安時代から室町時代の優品を精選して紹介した。		
学術的意義	やまと絵は平安時代前期に成立し、その後の日本絵画史の中でも主要な位置を占め続けた。本展は平安時代から室町時代に至るやまと絵の優品245件を展示することで、王朝美の精華を受け継ぎながらも常に革新的であり続けてきた「やまと絵」の壮大、かつ華麗な歴史を総覧した。		
教育普及	・記念講演会「やまと絵の成立と展開」(10/20実施)と「「蒔絵とやまと絵」「仏画とやまと絵」(10/27実施)を開催し、それぞれ327人と298人が参加した。 ・ジュニアガイドを編集し、関東近県の小学校および会場にて、59,919部を配布した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：10月10日(計183名出席)。ポスター・チラシ制作、DM発送実施。交通広告：東京メトロ・京王線沿線駅等ポスター掲示、JR駅NTボード24駅23面、JRADビジョン・メトロコンコースサイネージ、上野駅公園改札横シートほか。新聞：読売新聞 朝刊東京本社版テレビ面ほか。テレビ：テレビ朝日「クイズプレゼンバラエティーQさま!!」、NHKラジオ深夜便「私のアート交遊録」、NHK Eテレ「日曜美術館」で放映。雑誌：「芸術新潮」「美術の窓」「日経おとなのOFF美術展」「美術展びあ2023」「ハルメク」「男の隠れ家」「HIRAGANA TIMES.」「アートコレクターズ」「サライ」「婦人公論」「目の眼」等で掲載。また、展覧会公式サイト・SNSなどで広報を実施。		
補 足	 展示風景  展示風景		
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値
来館者アンケート満足度		92.2%	86%
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 「日本美術の教科書」と呼ぶに相応しい、質量とも充実した展示内容を反映して、来館者アンケートでも満足度92.2%という高い評価を得ることができた。運営面においても金・土曜の開館時間延長や、11月27日(月)は臨時開館を行うなどの工夫を図った。また、本展に関連した総合文化展における特集展示を複数開催することで充実した鑑賞機会を提供した。以上より目標を上回る成果を上げたと判断し、A判定とした。	



告知ポスター

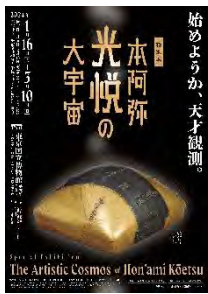
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】 オ 「横尾忠則 寒山百得」(9月12日～12月3日)(72日間) (目標来館者数4万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長 松嶋雅人
【実績】			
展覧会名	「横尾忠則 寒山百得」展		
会 期	9月12日(火)～12月3日(日)(72日間)		
会 場	東京国立博物館 表慶館		
主 催	東京国立博物館、読売新聞社、文化庁		
作品件数	102点(いずれも横尾忠則による新作)		
来館者数	47,719人(目標値4万人、達成率119.2%)		
入場料金	一般 1,600円、大学生 1,400円、高校生 1,000円		
アンケート結果	満足度89.3%		
告知ポスター			
			
【成果】			
企画構成 展示作品	本展は、現代美術家・横尾忠則が、東洋の伝統的画題である「寒山拾得」を独自の解釈で再構築した完全新作102点を一挙初公開したものである。寒山と拾得は中国・唐時代に生きた風狂な師僧であり、東アジア全域で盛んに絵画化された。本展に出陳された作品はいずれも、寒山拾得が到達した脱俗の境地をなぞるように、画家自身があらゆる時空を超越しながら縦横無尽に描き出したものといえる。		
学術的意義	横尾忠則畢生の大作と位置付けられる寒山拾得シリーズは、古美術における古典的テーマを題材としたものであり、当館収蔵品とも関連が深い。本展においてそれらを一堂に公開できた意義は大きいといえる。当館で初めて現代美術家を取り上げた展覧会であり、新たな来館者層を開拓した点も評価される。		
教育普及			
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：9月11日(204名出席)。ポスター・チラシ制作、DM発送実施。交通広告：B1ポスター駅貼り(JR、東京メトロ、京王線)、電飾看板、メトロコルトン広告、サイネージ広告ほか。新聞：読売紙面(「就活ON!」SPECIAL8・9月号、全5段広告、番組面最終面小枠)ほか。テレビ：NHK総合「ニュースLIVE! ゆう5時」、日本テレビ「newsevery」、NHK BS8K「横尾忠則 聖者を描く「寒山拾得」の世界」、NHK「日曜美術館アートシーン」、NHK BS4K/BSP/NHKワールドプレミアム「横尾忠則 聖者を描く「寒山拾得」の世界」、テレビ朝日「じゅん散歩」等で放映。雑誌：「月刊美術」「美術の窓」「アートコレクターズ」「Pen」「MOE」「Discover Japan」「文藝春秋」「クロワッサン」「BRUTUS」「婦人公論」「芸術新潮」「リンネル」「男の隠れ家」「家庭画報」「美術の窓」等で掲載。また、展覧会公式サイト・SNSなどで広報を実施		
補 足			
			
【定量的評価】項目			
5年度実績		目標値	
来館者アンケート満足度		89.3%	86%
【年度計画に対する総合評価】			
評価：A		【判定根拠、課題と対応】 来館者アンケートでは満足度89.3%という高い評価を得ることができた。アンケート項目の来館頻度で「初めて」と答えた層が約30%(通常15%前後)となる等、新規顧客層の開拓にも寄与したとも考えられる。「寒山拾得」は東洋における伝統的な画題として知られるが、本展を通じて、そうした古美術作品への理解を深めることができた。また本展は、特集「東京国立博物館の寒山拾得図―伝説の風狂僧への憧れ」と連携して実施したものだが、本館の総合文化展への誘客など、新たな館内巡回を促進した点も特筆される。	



告知ポスター

展示風景

展示風景

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】	I-1-(2)-②-1 (東京国立博物館)		
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長 松嶋雅人
【実績】			
展覧会名	特別展「本阿弥光悦の大字宙」		
会 期	6年1月16日(火)～3月10日(日)(48日間)		
会 場	東京国立博物館 平成館 特別展示室		
主 催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、東京新聞		
作品件数	110件(うち国宝6件、うち重要文化財20件、うち重要美術品8件)		
来館者数	122,205人(目標値8万人、達成率153%)		
入場料金	一般 2,100円、大学生 1,300円、高校生 900円		
アンケート結果	満足度90.0%		
告知ポスター			
【成果】			
企画構成 展示作品	本展は、江戸時代初期に活躍した芸術家、本阿弥光悦をテーマとするもので、第1章「本阿弥光悦の家職と法華信仰—光悦芸術の源泉」、第2章「謡本と光悦蒔絵—炸裂する言葉とかたち」、第3章「光悦の筆線と字姿—二次元空間の妙技」、第4章「光悦茶碗—土の刀剣」の展示構成により、様々な文化芸術活動に関わって光悦が生み出した優品の数々を総合的に紹介した。		
学術的意義	各分野の最新の研究成果を踏まえた展示構成と作品により、本阿弥光悦研究の到達点と今後の展望を示すことができた。また、第2室ではNHKと協働した8K文化財プロジェクトによる8K映像「本阿弥光悦の大字宙」を制作して会場内で上映し、リアルとバーチャルが融合した新たな展示手法を開拓した。		
教育普及	記念講演会「国宝 舟橋蒔絵硯箱を解剖する」を6年1月30日に開催し、305人が参加した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：6年1月15日(201名出席)。ポスター・チラシ制作、DM発送実施。交通広告：JR約30駅SWボードほか。新聞：東京新聞、朝日新聞、毎日新聞ほか。テレビ：NHK 日曜美術館等で放映。雑誌：新潮社「芸術新潮」、小学館「サライ」等で掲載。また、展覧会公式サイト・SNSなどで広報を実施。		
補 足	  		
【定量的評価】項目	5年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	90.0%	86%	
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 本阿弥光悦だけを取り上げた展覧会は、国立博物館としては昭和10年(1935)に恩賜京都博物館で行われて以来90年ぶりの開催である。近年大きな進展をみせている光悦研究の最新成果として国宝「舟橋蒔絵硯箱」のCT撮影による光悦蒔絵の構造に関する新発見などを展示内容に盛り込み、展示方法についても数より質を重視し、8K映像の上映によるリアルとバーチャルを融合した展示手法の開拓や、重要文化財「鶴下絵三十六歌仙和歌歌巻」を専用ケースで全巻展示、光悦茶碗をすべて独立ケースで展示するなど作品の魅力と本質を引き出すことに注力した。こうした取り組みにより、目標を大きく上回る来館者とともに高い満足度がえられた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】 ア 親鸞聖人生誕850年 特別展「親鸞—生涯と名宝」(3月25日～5月21日) (目標来館者数5万人)				
担当部課	学芸部	事業責任者	調査・国際連携室研究員 上杉智英	
【実績】				
展覧会名	親鸞聖人生誕850年 特別展「親鸞—生涯と名宝」			
会 期	3月25日(土)～5月21日(日)(50日間)			
会 場	京都国立博物館 平成知新館			
主 催	京都国立博物館、朝日新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿			
作品件数	181件(うち国宝11件、重要文化財75件)			
来館者数	112,461人(目標値5万人、達成率:224.9%)			
入場料金	一般 1,800円、大学生 1,200円、高校生 700円			
アンケート結果	満足度90.3%		告知チラシ	
【成果】				
企画構成 展示作品	・本展は浄土真宗の開祖、親鸞(1173～1262)の生誕850年にあたり、生誕の地であり臨終の地でもある京都において、浄土真宗十派の寺院が所蔵する法宝を一堂に集め、その生涯と思想を紹介した。 ・出陳件数は国宝11件、重要文化財75件を含む、親鸞展として過去最多の181件を数えた。 ・3階:親鸞を導くもの、2階:親鸞の生涯、1階:各論(親鸞と門弟/親鸞と聖徳太子/親鸞のことは/浄土真宗の名宝/親鸞の伝えるもの)と各フロア毎にテーマを設定し、理解し易い動線を目指すとともに、滞在時間の限られた団体観覧者が目当ての作品にアクセスできるように観覧の便を図った。 ・親鸞自筆の作品をほぼ網羅し、現存する親鸞の自筆自賛の名号4件、自筆書状12件の全てを展示した。 ・史上初、東本願寺・専修寺・西本願寺が所蔵する主著『教行信証』の自筆本と鎌倉時代の書写本を並べて展示した。			
学術的意義	・従来、親鸞に関連する作品と認識されていなかった「藤原範綱消息」「門葉記」「慈鎮和尚伝」「慈鎮像」を展示することにより、新たな親鸞理解の端緒を提示した。 ・龍谷大学図書館蔵の「恵信尼像」の来歴が判明した。 ・親鸞自筆の作品、並びに自筆が現存していない著述については弟子による書写本より善本を撰定し、カラー画像を収め、既存の研究において十分になされていなかった書誌学的観点から踏まえた解説を付すことで、以降の研究の基盤となるように図録を編輯した。			
教育普及	・記念講演会(6回) 下記の通り実施を行い、各回200人ほどが参加した。 3月25日「親鸞聖人の生涯」草野 顕之 氏(大谷大学 名誉教授) 4月1日「親鸞聖人伝絵の世界—覚如の絵巻制作」井並 林太郎(京都国立博物館 主任研究員) 4月15日「『坂東本・教行信証』と親鸞聖人」三木 彰円 氏(大谷大学 教授) 4月22日「親鸞聖人のご法物から立教開宗を聞思する」赤松 徹真 氏(本願寺史料研究所長、龍谷大学 名誉教授) 5月6日「親鸞 生涯と名宝」上杉 智英(京都国立博物館 研究員) 5月13日「親鸞の手紙」羽田 聡(京都国立博物館 保存修理指導室長兼美術室長) ・鑑賞ガイドを多言語(日・英・中・韓)で作成し配布した。 ・キャンパスメンバーズ会員校の学生及び教職員を対象に、本展覧会の見どころなどを解説する講演会を開催した。			
その他 (運営・広報・サービス等)	展覧会会期中は、新型コロナウイルス感染拡大防止や団体客対応に努める必要もあり、展覧会共催者ともその運営や広報などについて協議を重ねた。広報等については、各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載され、虎ブログについては3回の掲載を行った。			
補 足				
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度		90.3%	82%	
【年度計画に対する総合評価】 評定: A		【判定根拠、課題と対応】 団体での来館が多かったこともあるが目標値の2倍以上の来館者があり、アンケートの満足度も90.3%と高い数値を示した。展示室が一時混雑することもあったが、展示会場の「見どころマップ」を新たに作成し設置することにより、来館者の安全と要望に配慮した形で展覧会を開催することができた。また、展示内容・構成を評価する意見が多く、図録も購買率7.8%と堅調な売れ行きであったため、Aと評価する。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】 イ 特別展「東福寺」(10月7日～12月3日) (目標来館者数5万人)			
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室研究員 森道彦
【実績】			
展覧会名	特別展「東福寺」		
会 期	10月7日（土）～12月3日（日）(50日間)		
会 場	京都国立博物館 平成知新館		
主 催	京都国立博物館、大本山東福寺、読売新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿		
作品件数	189件（うち国宝7件、重要文化財102件）		
来館者数	69,294人（目標値5万人、達成率：138.6%）		
入場料金	一般 1,800円、大学生 1,200円、高校生 700円		
アンケート結果	満足度 88.5%		
告知チラシ			
【成果】			
企画構成 展示作品	京都五山の一角を占め、13～16世紀にかけての東アジア海域の宗教史や文化交流史、美術史上において国際的に非常に高い評価を受ける禅宗寺院、東福寺の全貌を初めて総合的に紹介した特別展。東京・京都の両国立博物館で年度をまたぎつつ、それぞれ3～6月、10～12月にかけて展観を行った。両館通じての総出陳件数は絵画・書跡典籍・古文書・工芸品・彫刻など208件（うち国指定品119件）で、京都では189件（うち国指定品109件）を出陳した。		
学術的意義	中世東福寺の寺史と、東アジア海域の文化交流におけるその存在意義を強く打ち出した展示構成とし、重要な新出作品、未出品作品を大量に出陳するなど東福寺研究の決定版と言える内容に仕上がった。4年度末（5年3月）に発行した図録は今後の禅宗史や禅宗美術研究において必須の文献たり得るもので、その後の会期中も調査を継続し、当館会場の会期に合わせて新規論稿を多数含む石川登志雄編『重要文化財 東福寺五百羅漢図』（勉誠出版、5年10月発行）を発刊するなど、さらなる研究の充実に努めた。また会期中に日本史・書跡・絵画・彫刻など各分野を網羅した講演会を開催して成果の普及に努めた。		
教育普及	下記の通り実施を行い、各回200人ほどが参加した。 ・関連土曜講座（プレ講座）(1回) 9月2日「博物館の舞台裏シリーズ① 特別展ができるまで—東福寺展の会場造りを中心に—」森道彦（当館 研究員）、青木麻佑花（当館 アソシエイトフェロー） ・記念講演会（7回） 10月14日「中国禅の本流としての東福寺—その歴史と文化財—」石川登志雄 氏（東福寺資料研究所長、京都産業大学教授） 10月21日「『五山』東福寺と室町将軍の額字」日種 真子 氏（東福寺資料研究所 主任学芸員） 10月28日「東福寺画壇と明兆」森 道彦（当館 研究員） 11月4日「京都・東福寺と杭州径山の交流」榎本 渉 氏（国際日本文化研究センター 教授） 11月11日「東福寺と禅宗の仏像」浅瀬 毅 氏（追手門学院大学 教授） 11月18日「墨跡にみる円爾と聖一派」六人部 克典 氏（東京国立博物館 研究員） 11月25日「東福寺と伝法衣一袈裟をめぐる物語—」山川 暁（当館 上席研究員／企画室長 兼 工芸室長） ・鑑賞ガイドを多言語（日・英・中・韓）カラー版で作成し、配布した。 ・キャンパスメンバーズ会員校の学生及び教職員を対象に、本展覧会の見どころなどを解説する講演会を開催した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	各種新聞、雑誌等で展覧会紹介記事が多数掲載されたほか、公式X（旧Twitter）で平日の作品紹介、館のInstagramで展覧会の目玉である五百羅漢図の内容をストーリーズ紹介するなど新たな試みを実施した。虎ブログについては4回の掲載を行った。また会場内での音声ガイドにスマートフォンを用いたシステムを当館として初めて導入した。		
補 足			
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値
来館者アンケート満足度		88.5%	82%
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症の影響低下に伴う訪日外国人の増加によって、来館者数は目標値を達成することができた。秋の名所としての東福寺の知名度から更なる人数増も期待されたが、紅葉の見頃の後れに伴って人数の伸び時期が予想以上に後れた。他展覧会に比して外国人や若年層の多さが顕著で、これは東福寺が観光寺院であることと共に Instagram など広報の工夫成果が出たものと判断され、新規客層へのいざないとして評価できる。ただし、従来の主要客層であった高齢者層の来館が少なかったのが留意点で、今後は新規客層の維持とともに従来の主要客層をいかに回復させるかが重要だろう。来館者目標数・アンケート満足度とも目標値を大きく上回っており、学術的意義も高かったことからB評価とした。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
ア 浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展「聖地 南山城—奈良と京都を結ぶ祈りの至宝—」(7月8日～9月3日) (目標来館者数6万人)			
担当部課	学芸部	事業責任者	主任研究員 山口隆介
【実績】			
展覧会名	浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展「聖地 南山城—奈良と京都を結ぶ祈りの至宝—」		
会 期	7月8日 (土)～9月3日 (日) (49日間)		
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館		
主 催	奈良国立博物館、日本経済新聞社、テレビ大阪		
作品件数	143件 (うち国宝 2件、重要文化財 47件)		
来館者数	58,559人 (達成率：97.6%)		
入場料金	一般1,800円(1,600円)、高校・大学生1,300円(1,100円)、小・中学生600円(400円) ※()は前売料金		
アンケート結果	満足度 97.4%		
告知チラシ			
【成果】			
企画構成 展示作品	5か年に及ぶ保存修理が完成した浄瑠璃寺九体阿弥陀像のうち2軀を修理後初公開するとともに、南山城とその周辺地域の寺社に伝わる仏像や神像を中心に、絵画や典籍・古文書、考古遺品などを一堂に展観することで、この地に花開いた仏教文化を紹介した。展示構成はジャンル別とせず、南山城と奈良との関わりを意識しながら古代から近世のトピックを全7章からなる章立てに落とし込むことで、南山城のゆたかな歴史の流れを感じられるように工夫した。浄瑠璃寺九体阿弥陀像のうち2軀をはじめ、140年ぶりの里帰りが実現した十二神将像(静嘉堂文庫美術館・東京国立博物館分蔵)と本尊薬師如来像(浄瑠璃寺蔵)の再会展示、約30年ぶりに公開された牛頭天王像(朱智神社蔵)など、南山城の代表的な文化財がまとまって公開される貴重な機会となった。		
学術的意義	質量ともに南山城の仏教文化の全貌を紹介するにふさわしい内容が実現し、浄瑠璃寺九体阿弥陀像をはじめ寺外での公開がほとんどなかった作品の出品が叶うなど、かつてない規模の充実した展覧会となった。また、展覧会の準備段階で詳しい調査や高精細デジタルカメラによる写真撮影、X線CTスキャン調査を実施することができた。得られた知見は展覧会図録に盛り込むとともに、会場のパネルや題箋にも反映させることで、最新の成果を広く内外に発信した。		
教育普及	・会期中に公開講座を3回(菱田哲郎氏「華開く仏教文化～南山城の古代寺院から」、谷口耕生「南山城と律宗の美術」、山口隆介「聖地 南山城の神と仏」)実施した。 ・南山城の歴史と文化を平易な解説と親しみやすいイラストで紹介したクイズ形式のワークシート「南山城の宝物に親しもう!」を作成した(構成・イラスト:当館教育室)。 ・関連イベントとして、「仏像大使トークショー」(出演:みうらじゅん氏、いとうせいこう氏)を実施した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	・本展の仏像大使である、みうらじゅん氏、いとうせいこう氏監修のオリジナルグッズの販売や音声ガイドへの特別出演を通して、幅広い層へのアプローチを行った。 ・南山城地域の寺社巡りツアーや自治体の広報物配架・物産販売に協力し、地域回遊性を向上させた。 ・有料の音声ガイドにスクリプトを準備し、聴覚障がいがある来館者にも音声ガイドと同じ内容が楽しめるように工夫した。		
補 足			
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値
来館者アンケート満足度		97.4%	89%
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 仏教美術を中心とした文化財の展示を活動の柱としている当館にとって、これに関連する多彩かつ魅力的な展示の企画立案および実施は、社会的な要請がもっとも多い業務である。こうした認識のもと、質量ともに南山城の仏教文化を紹介するにふさわしい内容の特別展を開催することができた。目標来館者数にはわずかに届かなかったが、美術史的な研究にとどまらず自然科学的なアプローチも踏まえた多角的な調査研究を実施することにより、最新の成果を広く内外に提示できた点もたいへん有益であった。また、満足度は目標値を大きく上回ったため、A評価と判断した。	

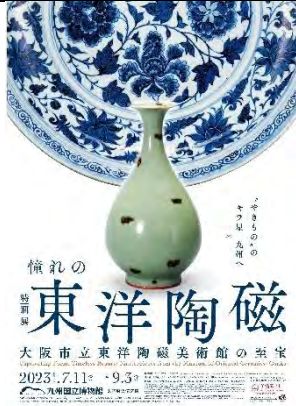
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】 イ 第75回 正倉院展 (10月28日～11月13日) (目標来館者数8万人)				
担当部課	学芸部	事業責任者	工芸考古室 主任研究員 三本 周作	
【実績】		 告知チラシ		
展覧会名	第75回 正倉院展			
会 期	10月28日 (土)～11月13日 (月) (17日間)			
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館			
主 催	奈良国立博物館			
作品件数	59件			
来館者数	115,193人 (達成率: 144%)			
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,500円、小・中学生500円			
アンケート結果	満足度 96.5%			
【成果】				
企画構成 展示作品	・宮内庁正倉院事務所により、正倉院宝物約9,000件の中から59件が厳選され、出陳された。調度品、楽器、服飾具、仏具、文書など、正倉院宝物の全体像がうかがえる幅広いジャンルの品が出陳されたが、特に人気が高い琵琶や螺鈿飾りの鏡のほか、スッポンをかたどった石製容器が注目を集めた。また、1250年の御遠忌を迎えた東大寺の僧・良弁の自署がある文書も出陳され、記念の年に良弁の偉業をあらためて紹介する機会となった。 ・展示構成は、個々の宝物について、「どのように使われたか」、「何を素材として作られているか」といった観点から分類し、系統立てて陳列することで、正倉院宝物の実像をわかりやすく伝えられるよう工夫した。			
学術的意義	・宮内庁正倉院事務所が継続している宝物調査の最新の成果、および当館研究員による研究成果を、図録、展示解説、講座等を通じて紹介し、宝物研究の最前線に触れていただく機会とした。中でも『正倉院紀要』最新号で公表された漆六角厨子残欠の復元研究については、会場の1室を大々的に使って展示し、印象に残るような展示空間を通じて来館者への発信に力を入れた。 ・5年度は会期中に「正倉院学術シンポジウム」を開催して、海外を含めた研究者とともに、出陳宝物の学術的意義について議論する場を設けた。			
教育普及	・入館者数の制限により来館できなかった方にも正倉院展をお楽しみいただけるよう、展示紹介の動画配信を行った。動画は出陳宝物を担当研究員の解説を交えて紹介したもの (YTV制作)、特別協力の読売新聞社主催で行われた講演会 (うち1回の講師を当館研究員が担当) を収録したもの (読売新聞社制作) に加え、5年度は当館国際交流担当が英語で解説した外国人向けの紹介動画 (YTV制作) などが用意された。 ・公開講座は予約制とし、会期中に3回実施した。講師は宮内庁正倉院事務所の研究官1名、当館研究員2名が担当した。4年度までコロナ禍で参加人数を会場収容人員の半数にしぼっていたが、5年度からコロナ禍以前の水準に戻して実施したため、昨年以上に多くの方に聴講いただくことができた。 ・音声ガイドでは研究員自身による解説トラックも制作し、宝物のより詳しい解説に触れていただくことができた。また、外国人観光客が増加する現状に鑑み、英語による音声ガイドも作成し、外国人への普及に努めた。日・英音声ガイドの貸出率は、来場者数の22.4%であった。			
その他 (運営・広報・サービス等)	・4年度に続き入場者数の制限を行ったが、5年度は入場時間枠を30分単位とすることで入場者の分散を図り、来館者の観覧環境の改善と運営の効率化につなげられた。 ・チケットは事前予約制としたが、従来日本語のみに対応していたローソンチケットに加え、英語にも対応しているイーディックスを導入することで、外国人観光客がチケットを購入しやすくなるように努めた。 ・音声ガイドは実機の提供に加え、会期終了後も音声ガイドを楽しめるスマートフォン用アプリでの提供も行った。また、補聴器使用者や左右の耳の聴覚が異なる来館者に向けて片耳イヤホンの貸出、車椅子や杖の利用によりガイド機操作が難しい来館者への延長コードの貸出、通常のヘッドフォンでは音声聞き取りづらい来館者に向けて骨伝導イヤホンの貸出も行うなど、障がい者向けサービスの充実化によって、あらゆる層の来館者が展示を楽しめるよう努力した。 ・チャンネル登録者数35万人超のVtuberから正倉院展をテーマにした動画を公開することで、新たな客層を掘り起こした。			
補 足				
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度		96.5%	89%	
【年度計画に対する総合評価】 評価: A		【判定根拠、課題と対応】 展示構成や最新の研究成果の普及など、出陳内容に沿って最善の形が提示できたと考える。特に入場者数は目標値の 144%を達成でき、アンケート満足度についても所期の目標値を大きく上回る結果が得られ、目標以上を達成している。一方で、アンケートにおいて会場の導線やパネルの内容などに関する要望も寄せられており、これらの要望については6年度以降も引き続き検討を行う。外国人観光客を視野に入れた取り組み (広報、チケット販売、多言語解説の充実など) についても一層の取り組みの強化を図りたい。		



告知チラシ

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】			
ア 特別展「アール・ヌーヴォーのガラス・ガレとドームの自然賛歌」(4月18日～6月11日)(目標来館者数3万人)			
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展室主任研究員 望月規史
【実績】			
展覧会名	特別展「アール・ヌーヴォーのガラス・ガレとドームの自然賛歌」		
会 期	4月18日(火)～6月11日(日)(49日間)		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、RKB毎日放送、西日本新聞イベントサービス		
作品件数	133件(うち国宝0件、うち重要文化財0件)		
来館者数	49,485人(目標値3万人、達成率:165.0%)		
入場料金	一般1,700円(1,500円)、高校・大学生1,000円(800円)、小・中学生600円(400円)※()は前売料金		
アンケート結果	満足度 94.2%		
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】 イ 特別展「憧れの東洋陶磁—大阪市立東洋陶磁美術館の至宝—」(7月11日～9月3日)(目標来館者数3万人)			
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化交流展室主任研究員 酒井田千明
【実績】			
展覧会名	特別展「憧れの東洋陶磁—大阪市立東洋陶磁美術館の至宝—」		
会 期	7月11日(火)～9月3日(日)(48日間)※8月10日は台風の影響により臨時休館		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、大阪市立東洋陶磁美術館、読売新聞社		
作品件数	112件(うち国宝3件、うち重要文化財19件)		
来館者数	20,851人(目標値3万人、達成率:70.0%)		
入場料金	一般1,700円(1,500円)、高校・大学生1,300円(1,100円)、小・中学生900円(700円)※()は前売料金		
アンケート結果	満足度91.9%		
【成果】			
企画構成 展示作品	・世界有数の陶磁コレクションを誇る大阪市立東洋陶磁美術館所蔵品のうち、国宝2件、重要文化財12件を含む中国・韓国・日本陶磁の選りすぐりの名品88件と、東洋陶磁がいかに日本文化の一翼を担っているかを示す、絵画や九州の出土遺物を合わせて紹介した。 ・プロローグでは、「大阪市立東洋陶磁美術館を創ったコレクション」と題し、同館を代表する寄贈者である安宅英一氏と李秉昌氏の思い入れのある作品や、収集にまつわるエピソードのある作品を紹介した。 ・第1章は、「東洋陶磁礼賛」と題し、中国及び韓国陶磁の歴史を、同館の名品の数々を通じて辿る構成とした。 ・第2章は「日本文化となった東洋陶磁」と題し、「1.九州から出土した東洋陶磁」、→「2. 禅宗寺院の喫茶と茶器」、→「3. 足利将軍家と唐物」、→「4. 近世日本の食の器—中国陶磁の影響」という4つの重要なトピックコーナーを設置した。 - また、体験型デジタルコンテンツ「8Kで文化財 ふれる・まわせる名茶碗」を設置し、日本の茶道の発展を担った中国・韓国・日本陶磁の名碗6碗を、8Kの高精細画像で鑑賞することのできるコーナーとした。 ・展覧会場の最後に、国内に現存する汝窯青磁2点を集めた特設コーナーを設置した。		
学術的意義	・世界的に評価の高い大阪市立東洋陶磁美術館所蔵の中国・韓国陶磁の名品を一堂に会することは、我が国の文化を育んだ東洋陶磁との長い歴史を振り返る貴重な機会となった。 ・九州を窓口として日本に将来された東洋陶磁の様相を知ることのできる機会となった。また日本文化の成熟に多大なる影響を与えた唐物を知る機会となった。 ・最新の東洋陶磁研究を反映した図録を大阪市立東洋陶磁美術館と共著で出版した。		
教育普及	・茶碗型コントローラーを動かすと8Kの高精細画像で名碗6作品を見ることが出来るデジタルコンテンツ、「8Kで文化財 ふれる・まわせる名茶碗」を会場内に設置した。 ・小学生以上の親子を対象とした、やきものワークショップ「家族でロクロ成形に挑戦!」を開催した。有田焼陶芸家の中村清吾氏の指導により、出陳作品の「青磁長頸瓶 銘 鋕」のロクロ成形に挑戦する講座で、計11組21人が参加した。 ・「リレー講座 これであなたもやきものツウ!」と題し、大阪市立東洋陶磁美術館学芸員と当館研究員が講師を務め、延べ2日に亘り、全4講座を開催した。 ・トークセッション「三右衛門が語る 憧れの東洋陶磁」と題し、重要無形文化財保持者(人間国宝)の十四代今泉今右衛門氏、同福島善三氏(中里太郎右衛門氏の代理)と十五代酒井田柿右衛門氏が、本展出陳の大阪市立東洋陶磁美術館所蔵の名宝について語った。		
その他 (運営・広報・サービス等)	・中国陶磁と韓国陶磁の歴史紹介パネル及び窯址地図、中国・韓国・日本の歴史年表、陶磁器の製作技法のパネルを掲出した。歴史紹介パネルは長文のため、QRコードを付けて、来場者が携帯等で取り込めるように配慮した。出陳目録の最終頁に製作技法を掲出し、観覧の助けとなるように工夫した。 ・絵画作品のあるケースを除き、すべて写真撮影可とした。国宝と重要文化財の2つの油滴天目を並べたケースは、来場者によりX(旧Twitter)等に画像がアップされ話題になった。 ・ネットやSNSを通じて広報活動を展開した。また、担当研究員によるテレビ番組、ラジオ番組の出演や、公共施設等における講演会を通じて、広く情報を発信した。 ・「きゅーはく陶器市」と題し、東洋陶磁の影響を受けて誕生した九州のやきものという観点から、有田焼、唐津焼、高取焼、波佐見焼などの展示即売会を、1階エントランスで延べ16日間に亘り開催した。		
補 足	大雨の影響により開幕前日の内覧会が中止、会期中も台風による臨時休館があった。		
【定量的評価】項目			
来館者アンケート満足度	5年度実績	目標値	
	91.9%	87%	

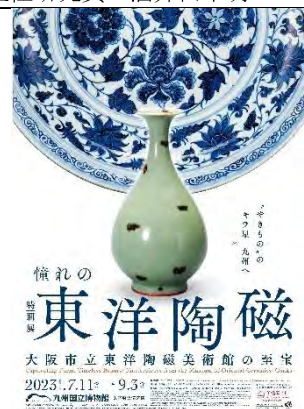


憧れの
東洋陶磁

大阪市立東洋陶磁美術館の至宝

2023.7.11 - 9.3

九州国立博物館 特別展示室



【年度計画に対する総合評価】 評定：B	大雨による内覧会の中止や、台風による臨時休館や連日の猛暑などが原因で、動員は想定を下回る結果となった。一方で、来場者アンケートでは「重要文化財・国宝の油滴天目を一度に二つとも観ることができて貴重な体験をした。」という声が多数挙がり、回答者の91.9%が展覧会全体の印象について「とても良かった」「良かった」と回答しており、展覧会の内容や展示構成について満足度の高い結果となった。
-----------------------------------	--

【書式A】

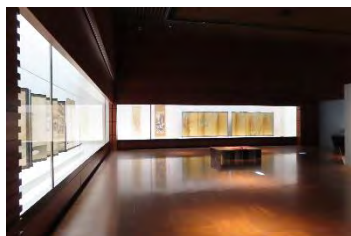
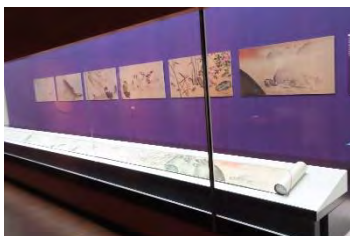
施設名 九州国立博物館

処理番号 1221Dウ

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】 ウ 特別展「古代メキシコ マヤ、アステカ、テオティワカン」(10月3日～12月10日)(目標来館者数4万人)			
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課主任研究員 小澤佳憲
【実績】			
展覧会名	特別展「古代メキシコ マヤ、アステカ、テオティワカン」		
会 期	10月3日(火)～12月10日(日)(60日間)		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、朝日新聞社		
作品件数	141件(うち国宝0件、重要文化財0件)		
来館者数	88,895人(目標値4万人、達成率:222.2%)		
入場料金	一般2,000円(1,800円)、高校・大学生1,300円(1,100円)、小・中学生900円(700円)※()は前売料金		
アンケート結果	満足度 93.1%		
告知ポスター			
			
【成果】			
企画構成 展示作品	・メキシコ・メソアメリカ地域の古代文明より、マヤ文明、アステカ文明、テオティワカン文明の3つの著名な古代文明に着目し、イントロダクションと併せ4章構成でメキシコ古代文明の世界を紹介した。 ・メキシコ国立人類学歴史研究所(INAH)の全面的な協力を得て、大半の展示作品が本邦初公開という貴重な機会を提供した。とくに、マヤ文明の都市パレンケから発見された、通称「赤の女王」(レイナ・ロハ)とよばれる女性人骨の副葬品は、アメリカ大陸以外では初公開であり、大変貴重な体験を提供することができた。		
学術的意義	・マヤ文明の章には猪俣健氏(アリゾナ大学教授)を、アステカ文明の章にはアルベルト・ロペス・ルハン氏(メキシコ国立人類学歴史研究所アステカ大神殿プロジェクト団長)を、テオティワカン文明の章と展覧会全体の構成には杉山三郎氏(岡山大学客員教授)をそれぞれ監修者として招くことができた。世界的に著名な各分野の専門家による監修で専門的内容を身近に紹介する展覧会となった。		
教育普及	・チラシやプレスリリース資料の内容を小学校高学年・中学生向けに改変した「ジュニアガイド」を作成し、会場内で配布し展覧会の普及に努めた。 ・館内ホールにおいて館内外の講師によるリレー講座を実施し、展覧会の内容を解説するとともにその意義の普及に努めた。 ・親しみやすい内容の解説動画を撮影し、当館ウェブサイトのYouTubeで公開した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	・展示レイアウトは可能な限り来館者の混雑を回避できるようにした。 ・ポスター・チラシ、交通広告、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、ウェブサイト、SNSなど各種媒体で情報発信した。 ・個人利用に限り、来館者による展示作品全点の写真撮影を可能とした。 ・会期中に、メキシコ出身の舞踊団による伝統舞踊と音楽のコンサートや、マーチングバンドによるメキシコ音楽の演奏を行なった。また、1階エントランスエリアに、メキシコの伝統行事である「死者の日」でメキシコ各地に設置される祭壇(オフレンダ)を再現したコーナーを設け、来館者にマリーゴールドの花を模した折り花を作って飾り付けてもらうことでメキシコ伝統行事を体感する機会を提供した。		
補 足	 展示会場写真		
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値
来館者アンケート満足度		93.1%	87%
【年度計画に対する総合評価】 評価: A		【判定根拠、課題と対応】 メキシコ古代文明を代表する貴重な展示作品の数々や、世界遺産に登録されているメキシコ古代遺跡の雰囲気を体感できるよう、大型の展示造作の活用や、展示室の空間を最大限に生かした展示構成で、非常に高い満足度を達成した。また、様々な媒体を活用した広報により、目標数の2倍を超える来館者数を達成した。	



告知ポスター

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展			
【年度計画】 エ 特別展「生誕270年 長沢芦雪ー若冲、応挙につづく天才画家ー」6年2月6日～3月31日（目標来館者数3万人）				
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	博物館科学課主任研究員 鷲頭桂	
【実績】		 告知ポスター		
展覧会名	特別展「生誕270年 長沢芦雪 ー若冲、応挙につづく天才画家ー」			
会 期	6年2月6日（火）～3月31日（日）（48日間）			
会 場	九州国立博物館 特別展示室			
主 催	九州国立博物館・福岡県、長沢芦雪福岡展実行委員会			
作品件数	64件（うち重要文化11件）			
来館者数	83,080人（目標値3万人、達成率：276.9%）			
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,000円、小・中学生600円			
アンケート結果	満足度93.6%			
【成果】				
企画構成 展示作品	・第1章「円山応挙に学ぶ」、第2章「紀南での揮毫」、第3章「より新しく、より自由に」、特別公開「同時代の天才画家たち」の4章構成とした。 ・人物、動物、植物、山水などの多彩な画題を、大型の襖や屏風から、掛幅装や画卷、絵馬などの様々な素材に発揮した絵師長沢芦雪の画技と表現を、選りすぐりの作品群によって紹介した。 ・芦雪の師・円山応挙のほか、伊藤若冲、与謝蕪村、池大雅、曾我蕭白など、芦雪を生んだ京都の地にあって才能を発揮した18世紀の天才画家たちの名品を展示した。			
学術的意義	・九州では初となる長沢芦雪の大回顧展であり、近年人気を増している絵師長沢芦雪の魅力を九州の地において広く伝え認知を促す好機とした。 ・師の円山応挙譲りの繊細な描写や鮮やかな賦彩のみならず、闊達な運筆や巧みな水墨技法、奇抜な構想や意表を突く表現など、長沢芦雪の画業の幅広さと卓越性を改めて確認する展観となった。 ・長沢芦雪と同じ時代に活躍した、18世紀日本画壇を代表する画家たちの名品を取り上げて展示し、芦雪を生み出す土壌となった当時の京都における文化芸術の成熟と創造力を伝えた。			
教育普及	・ミュージアムホールにて外部講師による講演会を1回（2月11日 講師：河野元昭氏（本展監修者・美術史家・東京大学名誉教授））、担当研究員による展示室内ミュージアムトークを3回（2月17日、3月9日、3月29日 講師：鷲頭桂）実施した。 ・親しみやすい内容の展覧会解説動画を撮影し、当館のYouTubeチャンネルである「kyuhakuchannel」で公開した。			
その他 （運営・広報・サービス等）	・展示構成や作品の大きさを勘案し特別展展示室の第3室から1室へと展開する導線とした。 ・九州における初の大回顧展という事情を考慮し、映像やパネルを多数用いて長沢芦雪という絵師の紹介につとめた。 ・ポスター・チラシ、交通広告、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、ウェブサイト、SNSなど各種媒体で情報発信した。 ・近隣の文化施設や関連団体施設、テレビ・ラジオ及び当館のYouTubeなどのメディアにおいて、担当研究員が展覧会概要や展示作品の解説を行った。 ・会期中に京都国立博物館PR大使「トラりん」を招聘し、民放テレビ告知番組出演、館内グリーティング（2月17日、18日 各2回ずつ）、当館「kyuhakuchannel」出演など、本特別展の積極的なPR活動に協力いただいた。 ・特に若者層への訴求をねらい、人気俳優の町田啓太氏に音声ガイドナビゲーター、アーティストで人気バンド“YOASOBI”のボーカルikuraこと幾田りら氏にイメージソングを担当いただいた。また展覧会会期中、人気芸人の「見取り図」に来館いただき30分の特別番組を収録、放映した。			
補 足	 展示会場			
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度		93.6%	87%	
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 奇想の画家として伊藤若冲や曾我蕭白らとともに近年人気を博している長沢芦雪を、九州で本格的に紹介する初の機会となった。芦雪の代表的な名品を選りすぐっただけでなく、同時代の著名画家作品も取り上げ、天才画家たちを輩出した文化的高揚と改めての芦雪の独自性を示せ		

	たことにより、予想を大きく上回る多数の観覧者獲得につながったと思われる。若者を意識した各種メディアによる PR も功を奏し、30 代までの来館者が約 20%を占めるなど、アンケートでも若い年齢層の割合が比較的多かった。こうした点から A 評価とした。
--	--

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 (2) 展覧事業 ②特別展等 2) 海外展								
【年度計画】 ・ I-1-(2)-②-2) (東京国立博物館)									
担当部課	学芸企画部		事業責任者		学芸企画部博物館教育課教育普及室長 品川欣也				
【実績・成果】 ア ・展覧会名 海外展「日本の美の原点」 ・会 期 6月2日(金)～9月24日(日) (115 日間) ・会 場 ギリシャ共和国 イラクリオン考古博物館 ・主 催 東京国立博物館、ギリシャ文化スポーツ省 ・特別協力 文化庁、朝日新聞社、NHK、NHK プロモーション、東映 ・協 力 エミレーツ航空 ・作品件数 61 件 (うち、重文 2 件) ・来館者数 260,694 人 ヨーロッパ文明揺籃の地・ギリシャにて、はじめて日本の考古遺物を本格的に紹介した展覧会。縄文時代から古墳時代の文化を彩った優品を一堂に会し、世界的に見てもきわめて個性豊かな日本の原始美術の魅力を、広くヨーロッパの人々に伝えることで、日本の歴史や文化への関心と理解を深めた。									
【補足事項】									
									
ギャラリートーク			連携展示			図録やグッズなど			
【評価指標】		5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4
来館者数		260,694人	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 本展はギリシャで日本各地の考古資料がまとまって紹介されるはじめての機会である。 本展に合わせ、現地では連携展示「クレタと日本文化との対話」をはじめ、ギャラリートーク (障がい者向けを含めて計7回)、講演会1回、ワークショップ1回などさまざまな事業を行い、日本文化への関心と理解を促す機会を数多く設けた。 会期はバカンスシーズンと重なったこともあって、ギリシャ国内だけでなく広く欧州各地からの来館者を迎えることができ、本展が日本文化の魅力発信に果たした役割は大きい。							
【中期計画記載事項】 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。									
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 本展は当初は2年4月に開幕予定であったがコロナ禍で延期となったものである。この間、両国関係者が粘り強く調整を重ね、無事に展覧会を開催することができ、また来館者数も26万人を超え、当初の目的を十分に果たした。海外展では現地との連絡調整、個々の状況に合わせた体制や戦略作りなどの事前準備が重要であり、この成功体験を今後の海外展にフィードバックしていく必要がある。							

【書式A】		施設名	東京国立博物館	処理番号	1231A
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信				
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供				
【年度計画】					
・I-I-(2)-③-1) (5館共通) ア、イ (東京国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク					
担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室 学芸研究部列品管理課		事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 綱島道征 特別展室長 佐藤寛介 デザイン室長 矢野賀一 国際交流室長 楊鋭 課長 鈴木みどり 教育普及室長 品川欣也 教育講座室長 金井裕子 ボランティア室長 川岸瀬里 広報室長 鬼頭智美 平常展調整室長 市元星	
【実績・成果】					
(5館共通)					
・平常展来館者数は961,328人と、4年度(625,235人)を大きく上回った。					
イ バリアフリー化等に係る整備を各館等が必要に応じて進めるなど、来館者等の利用に配慮した。一般便所でのバリアフリー対策として、東京国立博物館平成館1階トイレブース内に手すりを設置した。(令和6年3月18日完了)					
(東京国立博物館)					
・4年度に引き続き、アンケートは来館者に記入依頼を行う形で実施した。また、アンケートの集計結果と自由意見を館内で共有し、改善に努めた。なお、ウェブサイト、館内スタッフに寄せられた意見については、関係部署および展示担当者に速やかに共有することで、必要に応じた回答や改善を図った。					
ア 日本文化と展示内容への理解促進を目的に、引き続き本館4室「茶の美術」と9室「能と歌舞伎」にデジタルサイネージを設置し、両室の展示作品を実際に使用した場合のイメージがわかる映像を上映した。					
本館特別1・2室、4室の部屋解説、コーナー解説のサイネージ化をおこなった。また4室については6台のサイネージのネットワーク化をおこなった。正門プラザ内の案内サインの更新をおこなった。					
イ より快適な観覧環境を構築するため、本館4室の展示ケースの内外装、照明設備の更新、本館特別3室造作等の改修を実施した。本館4室改修工事、本館特別3室一部改修工事に係る設計及び工事の監理を行った。					
また、本館4室の壁付ケースの造作改修、ケース内免震装置付き展示台の更新、視き展示ケース1台の刷新をおこなった。本館5室・6室の甲冑用展示ケース2台、特別1室の視き展示ケース1台の製作設置をおこなった。本館13室のケース6台について開閉機構の電動化をおこなった。本館4室壁付ケース内及び間接照明の蛍光灯照明を高演色LED照明に改修した。本館展示室用のLED照明器具を導入した。					
ウ キ 日英中韓の4言語に対応した鑑賞ガイドアプリ「トーハクナビ」では、引き続き公式ウェブサイトと国立博物館所蔵品統合検索システムColBaseとの連携を図りながら、展示情報や作品解説を常に更新し、新たに撮影された作品画像を逐次追加した。インタラクティブコンテンツの充実を図るとともに、より快適な利用のために随時修正を行った。Google Analyticsのデータ、展示室内のビーコンのログデータにより、ユーザーログの集積と分析を継続するとともに、館内職員対象のアンケートやディスカッションを行い、次年度以降の安定的な運用を図った。					
エ 講座・講演会では、引き続き聴覚補助を目的として、ヒアリンググループの設置・管理と、一般来館者の理解補助にもつながる音声字幕サービス「UDトーク」利用を推進した。ユニバーサルデザインの触知図を用いた館内案内(本館19室)を継続し、筆談用のコミュニケーションボード等も活用した。また、センサーマップについてボランティアおよび職員への研修を実施するとともに、センサーマップへの理解促進と活用のため、キッズデーにゲーム形式でのプログラムやツアー等を実施し、感覚過敏を持たない来館者に対しても理解を深める取り組みを行った。また、特別展「中尊寺金色堂」と親子のギャラリー「中尊寺のかざり」において、視覚障がいや聴覚障がい、そのほか感覚過敏などの障がいをもつ来館者を想定し、触察ツールや動画を制作、カードダウンスペースを設けるなど、障がい者向け内覧会を実施した					
オ 3月に全面的に改訂を行った「ガイドマップ」(総合案内パンフレット)7言語8種(日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、西、独)の配布を行った。在庫部数に応じ随時予算の範囲内で増刷したほか、ウェブサイト上に各言語ガイドマップのPDFを公開し、そのQRコードを館内掲示や総合文化展チケット裏面に盛り込むなどして、web上でご覧いただけるよう誘導を図った。					
カ 本館2階「日本美術の流れ」を外国人来館者に理解してもらう基礎的な解説を、引き続き制作、オンライン上にて配信した。					
キ 本館4室(茶の湯)の展示のリニューアルにともない、4言語(日・英・中・韓)の解説を行い、外国人来館者にも分かりやすいよう翻訳のリライトを行った。					
ク トーハク新時代プランに基づき、本館特別4室「日本文化のひろば」において、日本文化の体験型展示を行なった。					
【補足事項】					
(5館共通)					
イ バリアフリー化等に係る整備を各館等が必要に応じて進めるなど、来館者等の利用に配慮した。					
(東京国立博物館)					
イ 快適な観覧環境を整備するため、本館4室の展示ケース内外装、照明設備の更新、特別3室造作等の改修を行った。					
ウ アプリの4年度のダウンロード数は以下の通りである。(抽出日令和4年12月22日)					
・Android版「トーハクナビ」7,172件*(累計15,238件、令和2年3月31日公開)(旧「トーハクナビ」累計23,483件 平成24年4月18日～令和2年4月7日公開)*計測期間1月1日～12月31日					
・iOS版「トーハクナビ」14,209件*(累計60,632件、令和2年3月31日公開)(旧「トーハクナビ」累計56,980件 平成24年4月18日～令和2年4月7日公開)*計測期間1月1日～12月31日					
【年度計画に対する総合評価】			【判定根拠、課題と対応】		
評価：B			今年度特に来館が急増した外国人や、さまざまな障がいを持つ来館者に対して、快適な鑑賞のための環境を提供した。		



本館19室触知図を使ったご案内

	トーハク新時代プランに基づき、より快適な観覧環境を形成するため、展示室内の展示ケース・照明設備・内装などの整備を継続して実施した。5年度は本館展示室の改修工事や、各種展示ケースの設計及び製作管理やコーナー解説・グラフィックパネルについてデジタルサイネージを順次追加導入しており、鑑賞環境が向上した。
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。	
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画3年目として、来館者の観覧環境の提供を順調に取り組んだ。特に、コロナ禍前に取り組んでいた外国人対応の取り組みが、今年度の外国人観光客の急増で、効果を上げたといえよう。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供		
【年度計画】 ・ I-1-(2)-③-1) (5館共通) ア、イ、(京都国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ、カ			
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 森考平 企画室長 山川暁
【実績・成果】 (5館共通) ア 平常展及び特別展において、題箋及び解説文、並びに音声ガイドを用いて情報提供を行った。題箋や解説文、平常展音声ガイドは4言語(日・英・中・韓)対応、特別展音声ガイドは新型コロナウイルスの影響を踏まえ、4年度に引き続き2言語(日・英)対応を行った。 イ・4年度に引き続き、特別展の題箋にユニバーサルデザインのフォントを使用し、より多くの来館者にとって読みやすい表示ができた。 ・特別展「東福寺」において、当館では初めて音声ガイドアプリを導入し、来館者の個人携帯端末でも音声ガイドを利用できるサービスを実施した。 ・バリアフリー施設・設備の維持管理状況の確認のため、巡回点検を行った。 (京都国立博物館) ア 館内案内リーフレット(7言語(8種):日・英・中(簡体字・繁体字)・韓・仏・独・西)を継続して配布した。 イ デジタルサイネージに加え、5年度からはSNSを活用し、館内各施設の紹介を行った。 ウ スマートフォンアプリを活用した体験学習型コンテンツ開発に取り掛かった。 エ 名品ギャラリーのジュニア版音声ガイドを使用し、若年層の音声ガイド利用増加を促すことができた。 オ・展示ケース内面ガラスの定期的な清掃を実施し、従来以上に快適な観覧環境の提供を整備することができた。 ・新型コロナウイルス感染症対策としてCO2濃度を監視しつつ外気取入量を調整することにより、安全で快適な観覧環境の提供を図った。 カ 館内各所のサイン及び題箋について、4言語(日・英・中・韓)を中心に検討し作成・設置できた。			
【補足事項】 イ ・展示ケースへの貼り題箋を用いた特別展「親鸞—生涯と名宝」・特別展「東福寺」にて、題箋にユニバーサルデザインフォントを使用した。			
音声ガイド利用台数 ・親鸞聖人生誕850年特別展「親鸞—生涯と名宝」(2言語 日・英) 17,479台 ・特別展「東福寺」(2言語 日・英) 7,322台 ・名品ギャラリー(4言語 日・英・中・韓) 14,512台 うちジュニア版音声ガイド(4言語 日・英・中・韓) 602台			
特別展「東福寺」音声ガイド看板			
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 年度計画に掲げる館内施設のバリアフリー化について維持管理を行い快適な観覧環境の提供を実施できた。 4年度に引き続き、5年度も特別展の題箋フォントにユニバーサルデザインを使用したことで、より多くの来館者が観覧しやすい環境を整えることができた。また特別展「東福寺」では、通常の音声ガイドに加え当館としては初めての音声ガイドアプリを導入し、様々な来館者のニーズに対応できた。	
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。			
【中期計画に対する評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 アンケートの実施や巡回点検に加え、題箋フォントのユニバーサルデザイン使用や、サイン・題箋等の多言語での掲出により、中期計画の目標である観覧環境の向上を図ることができた。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供		
【年度計画】 ・ I-1-(2)-③-1) (5館共通) ア、イ (奈良国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ			
担当部課	総務課	事業責任者	課長 平石憲良
【実績・成果】 (5館共通) ア 展覧会における題箋は4言語(日、英、中、韓)を準備し、幅広い層が展示を楽しめるように努めた。 イ 特別展「聖地 南山城」、特別展「第75回正倉院展」では有料の音声ガイドにスクリプトを準備し、聴覚障がいがある来館者にも音声ガイドと同じ内容が楽しめるように工夫した。また、「第75回正倉院展」では、補聴器使用者や左右の耳の聴覚が異なる来館者に向けて片耳イヤホンの貸出、車椅子や杖の利用によりガイド機操作が難しい来館者へ延長コードの貸出、通常のヘッドフォンでは音声聞きとりづらい来館者に向けて骨伝導イヤホンの貸出も行った。 (奈良国立博物館) ア 4言語(日、英、中、韓)の分かりやすい屋外用案内表記をデザイン公募し、広く提案を募った。 イ 5年度に製作した多言語の案内看板を使用することで、幅広い来館者層に快適な観覧環境を提供した。 ウ 5年度の特別展のうち、特に混雑が予想された「第75回正倉院展」では、入館方法についての案内看板や敷地案内図などを多言語で作成し、快適な観覧環境の実現に努めた。 エ 館内案内リーフレットは4言語(日、英、中、韓)で作成し、日本人のみならず外国人来館者も展示を楽しめるよう努めた。 オ 総合案内カウンターに外国語(英、中)対応が可能なスタッフを常駐させ、外国人来館者への対応を充実させられるよう努めた。			
【補足事項】 (5館共通) ・ 特別展「第75回正倉院展」では日本語版・ビギナーズ版に加え、インバウンド向けに英語版の音声ガイドを提供することで、幅広い層が展示を楽しめるよう工夫した。 (奈良国立博物館) ・ 特別展ごとに外国人来館者に向けて3言語(英、中、韓)の案内を作成し、受付での案内に使用した。 ・ 特別展「第75回正倉院展」では、外国人来館者に向けて、英語版のオンラインチケット購入サイトを準備した。また、チケット購入ガイドを4言語(日、英、中、韓)で作成し、当館ウェブサイトに掲載した。			
			
多言語の屋外用案内表記のデザイン		特別展「聖地 南山城」英語案内	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 多言語の屋外用案内表記のデザイン公募を行い整備案をまとめ、6年度に多様な来館者へ配慮した観覧環境の提供が出来るよう準備を進めた。4年度に比べて外国人来館者が増加したため、多言語の看板を新たに作成し、よりよい観覧環境の向上に努めた。また、混雑が予想される「第75回正倉院展」では案内看板を増設し、スムーズな観覧導線を確保するなど、快適な観覧環境の提供に努めた。	
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。			
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 特別展における音声ガイドは、日本語版に加え、英語版・ビギナーズ版の提供や障がい者向けのサービスの充実化などを通して、あらゆる立場の来館者が展示を楽しめるよう努力した。また、多言語の屋外サイン整備のためデザイン公募を行い、6年度に向けた整備を進めた。以上の理由から、中期計画を順調に遂行できたと考えB評価とした。引き続き、多様な来館者に向けた快適な観覧環境の提供に努める。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供		
【年度計画】 ・ I-1-(2)-③-1) (5館共通) ア、イ (九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ			
担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長 伊藤信二 課長 齋部麻矢 課長 執行正一
【実績・成果】 (5館共通) ア 文化交流展(平常展)、特別展(「アール・ヌーヴォーのガラス」「憧れの東洋陶磁」「古代メキシコ」「長沢芦雪」)において、題箋及び作品解説の一部について4言語(日、英、中、韓)の情報提供を行った。 イ 総合案内所での車イスやベビーカーの貸出、案内等の多言語化表記など、館内施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進した。また、ウェブサイトにもバリアフリー情報をまとめたページを設けて、必要な情報を素早く確認できるようにした。 (九州国立博物館) ア 文化交流展示室内13か所に掲出している展示室マップを、視覚障がいのある来館者にとって見やすいデザインや仕様に交換するとともに、常設する機器のバリアフリー化を実施した。 イ 4年度展示室の年間カレンダーを見やすいものの更新したところであるが、5年度もこれを継続した。 ウ 館内案内リーフレット(7言語(8種):日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)を継続して制作し、紙媒体で配布するとともに、ウェブサイトでも公開した。 エ ・ スマートフォンやポータブル端末を活用できる解説・展示案内アプリ「ナビレンス de きゅーはく」シリーズでは、音声を聞くことで解説情報を得るタイプの「ナビレンス de きゅーはく」と、画面を目で見ることで解説情報を得るタイプの「ナビレンス Go!de きゅーはく」を令和4年度より運用している。令和5年度は、「ナビレンス Go!de きゅーはく」について、作品解説の手話動画を追加制作した。(5年12月から供用開始) ・ QRコードの作品解説では、コードへの作品名表示や解説文の読みやすさの改善、外部情報へのリンクの追加などによる、サービス向上を図った。(6年4月から供用開始)			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評価:A		【判定根拠、課題と対応】 特別展では、4つの特別展全てにおいて4言語による多言語対応を行った。文化交流展示では、1) 展示室マップを視覚障がいのある来館者にとって見やすいデザインや仕様に交換し、常設した。また、2) 解説・展示案内アプリ「ナビレンスGo!de きゅーはく」では作品解説の手話動画を追加するなど、来館者へのサービスが向上した。	
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。			
【中期計画に対する評価】 評価:A		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、全ての来館者に快適な観覧環境を提供すると共に、来館者からのフィードバックを踏まえた改善を継続し、新しいツールやシステムを導入するなどバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を着実に推進している。一層の満足度を向上するための努力と魅力ある博物館を実現すべく新たな取り組みも行い、中期計画を上回る成果が得られていると判断し、A評価とした。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供		
【年度計画】 ・ I-1-(2)-③-1) (5館共通) ア、イ、(皇居三の丸尚蔵館) ア、イ			
担当部課	総務課 展示・普及課	事業責任者	総務課長 井手 真二 展示・普及課長 戸田 浩之
【実績・成果】 (5館共通) ア 展示における題箋を4言語(日、英、中、韓)表記とした。 また、館内の解説等その他の表示は、日・英の2言語で整備し、来館者に対するサービスの向上を図った。 イ 館内に多目的トイレを2室整備するとともに、車椅子3台(自走式1台、介助式2台)、ベビーカー1台を整備した。また、館内の注意事項等はピクトグラムを新たにデザインし、館内のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者の利用に配慮した観覧環境を提供した。 (皇居三の丸尚蔵館) ア デジタルサイネージ、案内看板、案内サイン、コインロッカー、観覧者用ソファ等を設置したほか、展示作品を紹介するための映像コンテンツを製作・上映した。また、宮内庁から機構への移管から開館まで1カ月と限られた期間の中で、大手携帯キャリアの電波の改善のほか館内フリーWi-Fi やサービスカウンターでのキャッシュレス対応の整備を進めた。 イ デジタルサイネージを4言語(日、英、中、韓)で整備したほか、館内案内リーフレットを5言語6種(日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏)で制作・配布した。 さらに、観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」を活用して、外国人に向けて分かりやすく魅力的に作品を解説する英文リーフレットを作成し、配布した。また、出品目録も日・英の2言語で用意し配布を行った。			
 4言語(日英中韓)題箋  展示室にて上映した、展示作品を紹介する映像コンテンツ  「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」を活用した英文リーフレット			
【補足事項】 展覧会は日時指定予約制とし、快適な観覧環境のなか鑑賞できるようにした。			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 館内のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化等を推進し、全ての来館者に向けて快適な観覧環境の提供に努めたほか、題箋や館内解説等の多言語化により特に外国人来館者へのサービス向上を図った。	
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 館内の多言語化やバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化等を着実に推進しており、8年度の全面開館に向けて高齢者、障がい者、乳幼児連れ、外国人を含む全ての来館者等の利用に配慮した取組に一層努めていく。	

【書式A】		施設名	東京国立博物館		処理番号	1232A				
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等									
【年度計画】・I-1-(2)-③-2) (5館共通) ア、イ、ウ (東京国立博物館) ア										
担当部課	総務部総務課			事業責任者	課長 竹之内勝典					
【実績・成果】 (5館共通) ア 5年度もミュージアムショップ、レストラン、館内スタッフの対応について満足度調査を行った。 イ ・レストラン等について開催中の特別展と関連付けたスイーツなど特別なメニューを提供し、利用してもらいやすい工夫を行った。また、限定メニューの紹介やレストランの場所の案内をポスターで掲示し、周知を図った。 ・ミュージアムショップで販売するミュージアムグッズの開発について検討を行った。 ウ 総合文化展については、11月3日(金・祝)から、金曜、土曜の開館時間を19時まで延長した。また、一部の特別展において、開館時間の延長及び休館日の臨時開館を行った。 (東京国立博物館) ア ・コロナ禍による利用者減等のため、2年2月27日(木)より営業を中止していた法隆寺宝物館1階のレストラン「ホテルオークラ ガーデンテラス」の営業を、6月1日(木)から再開した。また、キッチンカーについては、4年度に引き続き2台体制で飲食物の販売を行い、飲食の選択肢を増やした。キッチンカー、レストランともに、特別展やイベントに合わせたメニューを準備し提供した。 ・応挙館にて日本食と日本文化体験を提供する「TOHAKU茶館」を実施した(7月14日(金)～6年1月28日(日))。										
【補足事項】 (5館共通) ウ 特別展「古代メキシコマヤ、アステカ、テオティワカン」では、8月11日(金・祝)から9月2日(土)までは金曜日・土曜日・日曜日は19時までとする開館時間の延長を行った。また、特別展「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」では、金曜日・土曜日は20時までとする開館時間の延長を行ったほか、11月27日(月)は同展のみ臨時開館を行った。 (東京国立博物館) ア ・特別展「古代メキシコマヤ、アステカ、テオティワカン」開催期間中に「トーハクBEER NIGHT!」を実施し、キッチンカーの出店台数を増やすなど、来館者の満足度向上を図った。 ・「TOHAKU茶館」は観光庁による観光再始動事業の助成を受け、インバウンド観光客誘致を目標として7月14日(金)～6年1月28日(日)に実施した。特に希少な酒類や抹茶体験等が利用者から好評を博し、サービス向上を図ることができた。実施成果を検証の上、6年2月9日(金)からは、自立した事業として運営を再開した。 ・「トーハクキッズデー」(7月30日(日))では、レストランで子供向けメニューを提供するなど、館内実施イベントの盛り上げを図った。 ・新型コロナウイルスの影響によるレストラン・カフェ短縮運営について、状況に応じて営業再開・一部復旧などを行い、利用可能時間を拡大した。										
TOHAKU 茶館の外観 										
【評価指標】項目		5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4	
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		86.8%	69%	A		71.7	65.4	66.0	62.0	
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 観覧環境に関する来館者アンケートについて、ミュージアムショップおよび館内スタッフの対応に対する満足度に関してはそれぞれ89.7%、92.9%と目標値を大きく超える結果が得られた。一方で、レストランに対する満足度は77.8%と低さが目立った。委託業者ともこまめに連携を取り、引き続き改善を図るべく働きかけを行う等来館者サービスの向上に努めていく。また、「TOHAKU茶館」という新たな取組を実施し、来館者サービスの向上に努めた。来館者アンケート満足度の目標値は上回ったこと、レストランの改善を進めていること、新規事業の「TOHAKU茶館」を実施したことにより目標以上の成果を達成できたといえる。								
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランとサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。										
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 5年度は総合文化展の開館時間延長を行ったことに加え、特別展の状況にあわせ開館時間の延長を行うなど柔軟な運営を行うことができた。6年度以降も、混雑が予想される特別展では開館時間を延長するなど柔軟に運営できるよう、共催者とも事前に引き続き検討していきたい。 また、イベントに合わせて、キッチンカーで関連商品を販売するなどの工夫もできたため、今後も引き続き飲食店と展示との連携を図っていく。								

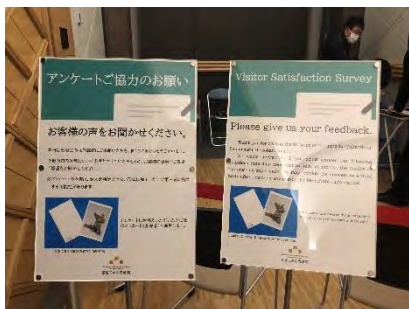
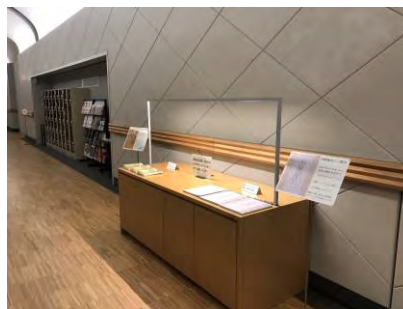


TOHAKU 茶館の外観

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】 ・ I-1-(2)-③-2) (5館共通) ア、イ、ウ、(京都国立博物館) ア									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 森考平 企画室長 山川暁						
【実績・成果】 (5館共通) ア 展覧事業、観覧環境等についての来館者アンケートを4言語(日・英・中・韓)で実施し、幅広い意見の把握に努めた。また、アンケート用紙に直接記入する従来方式に加え、秋の特別展よりスマホ等を利用して回答できる電子アンケートを新たに導入し、アンケート回答率の向上を図った。 イ ・ミュージアムショップでは、来館者の意見や、市場調査等を参考に、オリジナルグッズの作成を行った。 ・来館者のニーズの把握及びサービスの向上のため、ミュージアムショップ運営業者、カフェ運営業者、及び会場運営業者と個別に情報交換を行い、現状の取り組みのブラッシュアップを図った。 ウ ・特別展では、時間ごとの来館者数データに基づき、4年度に引き続き開館時間を30分前倒しする早朝開館を実施した。 ・特集展示「弥生時代青銅の祀り」、新春特集展示「辰づくし—干支を愛でる—」、特集展示「泉穴師神社の神像」、特集展示「雛まつりと人形—古今雛の東西—」では、金曜日の開館時間を19時までとする夜間開館を実施し、来館者の利便性向上に努めた。 (京都国立博物館) ア 『博物館だより220号』に広島大学・佐々木勇氏による親鸞聖人生誕850年特別展「親鸞—生涯と名宝」の展覧会評を掲載した。									
【補足事項】 イ ・当館公式キャラクター・トラリんのイラストがペイントされた「トラりんボトル」を新規に作成し、京都国立博物館だよりや虎ブログ等での広報も行った。また、販売促進のために、館内のカフェと連携し、購入者への特典サービス(コーヒー増量、お菓子贈呈)を行った。広報活動および販売促進活動の結果、初月の売上が当初の予想を大きく上回った。									
									
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値	評価	経年 変化	元	2	3	4
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		75.2%	64%	B		67.4	74.5	67.9	77.3
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症5類移行に伴う影響緩和により、4年度と比較して、海外からの来館者数が増加した。また、感染防止対策の多言語案内を継続することにより、多様な来館者が安心して観覧できる環境を整えることができた。秋の特別展より電子アンケートを導入したことにより、春の特別展に比べ回答率がおおよそ4倍に増加した。また、回答年齢は50代が最も多く、スマホ等の使用に抵抗のない人が少なくないこともわかった。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に行う。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 来館者へのアンケート、各運営業者との意見交換により、館に求められるニーズを把握し、現在の取り組みの見直し、改善を図った。また、早朝開館や夜間開館を実施するなど、開館時間を柔軟に設定することで、混雑緩和や観覧機会の拡大につなげることができた。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】 ・ I-1-(2)-③-2) (5 館共通) ア、イ、ウ 満足度調査・サービス改善 (奈良国立博物館) ア、イ									
担当部課	総務課			事業責任者	課長 平石憲良				
【実績・成果】 (5 館共通) ア 通年で記述式アンケートを実施した。外国人来館者を含め、寄せられた意見・要望を館内の関係部署と共有し、適宜改善に努めた。 (4 国立博物館共通) ア アンケート及びウェブサイトを通じて寄せられたミュージアムショップやレストランへの意見・要望を踏まえ、展覧会に合わせた限定メニューを提供するなど、利用者へのサービス向上に努めた。 イ 毎週土曜日の夜間開館 (17時～20時) を5年度も引き続き実施した。また、周辺行事に合わせたライトアップや本来休館予定だった8月7日、14日に「なら燈花会」イベントにあわせて開館するなどの協力も実施した。 (奈良国立博物館) ア アンケートで得られた意見・要望を参考に、グッズのラインナップやレストランメニューの改善・工夫に努めた。 イ ミュージアムショップにおいて展覧会グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図るとともに、特別展ではミュージアムショップ運営団体以外の企業に委託することで、多彩なグッズ展開を可能にして新規顧客の開拓をした。									
【補足事項】 (5 館共通) ア ミュージアムグッズやレストランメニューの改善・工夫に努め、新規顧客の掘り起こしを行った結果、4年度における10代～20代の回答率が全体の22.9% (293人) だったのに対し、5年度は34.5% (1,423人) に増加した。 ア インバウンドの回復にともない、多言語の案内看板の設置や敷地配置図の配布などにより、外国人来館者にとってわかりやすい案内に努めた。 (奈良国立博物館) イ 公式キャラクターのグッズ展開を推進するため、ミュージアムショップ運営団体と商標利用に関する覚書を締結し、公式キャラクターの使用方法を定めた。特別展では特設ショップを外部業者に委託することで、タレントとのコラボ商品など従来には無かった商品ラインナップを実現し、話題作りに成功した。									
 南山城展タレントコラボグッズ 「薬師如来の おくすり手帳」									
【定量的評価】 項目		5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		82.0%	74%	B		81.9	71.4	68.9	71.6
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 特別展ではショップ運営を企画力のある外部業者に委託したことで、新たな客層、特に若年層の掘り起こしを行った。その結果、若年層の入場者の割合を増やすことに成功した。また、商標権使用に係る覚書をショップとの間で締結し、ショップにおいて公式キャラクターグッズの製作を進めた。さらに、レストランとは桜の開花時期に庭園前に特設席を設けるなどの取り組みをおこなった。これらの取り組みもあり、観覧環境に関する来館者アンケート満足度は目標値を上回ることができた。以上の取り組みから、計画を遂行できたと判断しB評価とした。6年度以降も、敷地内の案内看板設置や、運営会社と協議のうえで魅力あるグッズやメニューの提供を行い、満足度向上を目指す。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの意見聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善を要望する等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 夜間開館の継続や、記述式アンケートやウェブサイトからの意見・要望に適宜対応し、来館者に配慮した運営を行った。加えてアンケートは回収率向上のための施策を継続することで、より多くの来館者の声を把握できるよう努めた。以上の取り組みから、中期計画を順調に進めることができた判断し、B評価とした							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】 ・ I-1-(2)-③-2) (5 館共通) ア、イ、ウ、(九州国立博物館) ア、イ									
担当部課	学芸部企画課 展示課 広報課 総務課				事業責任者	課長 伊藤信二 課長 齋部麻矢 課長 野田智子 課長 執行正一			
【実績・成果】 (5 館共通) ア 文化交流展及び特別展において記述式の来館者アンケートを4言語(日・英・中・韓)で実施した。また、特別展においては以前からQRコードを記載した看板を設置しウェブサイトでのアンケートにも誘導していたが、さらに文化交流展においても同様の手法を導入し、より幅広い意見の把握に努めた。得られた意見は全館的に共有し、観覧環境やサービスの向上に努めた。 イ カフェでは、特別展「古代メキシコ」にちなみ、メキシコの伝統的な手法で入れたコーヒー「カフェ デ オジャ」や展示品の赤の女王をイメージしたオリジナルのノンアルコールカクテル「レイナ・ロハ」などのメニューを提供した。「カフェ デ オジャ」は販売期間である10月から12月の販売数量がカフェメニューの中で2番目に多くなるなど、好評だった。 ウ 特別展開催期間の金・土曜日に夜間開館を実施し、日中の通常開館時間に来館が難しい人々に対して来館を促してサービス向上を図った。 (九州国立博物館) ア 新型コロナウイルス感染症の蔓延以来休業していたカフェ、レストランについて、委託条件の見直し、汚損した施設・設備の改修などを行い、広く参入を呼びかけた結果、新たな運営事業者が4月に決定し、九州国立博物館カフェ「Mカフェ」を10月14日(土)に、レストラン「いい乃じ」を12月7日(木)にオープンした。また、6年2月6日(火)には、来館者にさらに当館を楽しんでいただくため、レストラン横に足湯茶屋をオープンした。オープン後は事業者とともに各種メディアへの広報活動を行い、利用者や売上の増加につながっている。 イ ミュージアムショップにて、当館所蔵品である針聞書のぬいぐるみ、キーチェーンを再販売した。また、4階文化交流展示室での「アジアのおみやげ」展示に関連したグッズを販売し、展示室・ショップ相互にパネルで広報した。									
【補足事項】									
									
九博庭園 足湯茶屋					レストランメニュー すき焼き御膳				
【定量的評価】項目		5年度実績	目標値	評定	経年 変化	元	2	3	4
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		77.6%	68%	B		70.2	-	81.1	77.9
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症の蔓延以来休業していたレストラン・カフェの営業を再開し、カフェでは展示にちなんだ特別メニューを提供した。特別メニューは売上の上位2番目と好評で、今後も都度、展示と連動したメニューの提供を行いたい。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。									
【中期計画に対する評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 レストラン・カフェの営業を再開したことに加え、さらに、2月には足湯茶屋をレストランに併設し、よりお客様に楽しんでもいただける環境整備に取り組んだ。これらの取り組みから、今後中期計画を上回る成果が見込まれると判断し、A評定とした。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】 ・ I-1-(2)-③-2) (5館共通) ア、イ、ウ									
担当部課	総務課			事業責任者	総務課長 井手 真二				
【実績・成果】 (5館共通) ア館内スペースが限られる中で臨時にアンケートスペースを設けて、外国語(英語)を含む記述式アンケートを実施し、展覧事業等に関する満足度調査及び観覧環境に関する調査を行った。回答者には、作成したオリジナル絵葉書を配布し、アンケート回収率の向上を図った。寄せられた意見・要望については、館内関係部署と共有し、適宜改善に努めた。当館の収蔵品は、原則写真撮影可能として来館者満足度の向上を図った。									
イ 5年度は、一部開館期間中であるためミュージアムショップ等の施設・設備がない状況であるが、図録の販促を行うためのカウンターを設け、来館者には実物を手に取って内容を確認できるようにし、インフォメーションカウンターでの販売を行った。 また、当館が制作した図録について公益財団法人菊葉文化協会による皇居東御苑での委託販売(発送対応・ネット販売含む)を行い、当館のサービス向上に繋がるように努めた。 また、館内で販売可能なグッズの制作に向けた検討を行った。									
ウ 来館者の利便性向上のため、宮内庁、皇宮警察と協議し、季節によって変わる皇居東御苑の開苑時間に限定されない開館時間の設定を行った。特に金曜日は、皇居東御苑が閉園となるなかで開館し、皇居内の安全確保や秩序の維持に努めながら、来館者の案内誘導を適切に行った。									
									
アンケート記述コーナー					図録販売カウンター				
【補足事項】 来館者の満足度向上のため、委託事業者と綿密に連携し、多言語での対応が可能な案内スタッフを複数人配置した。皇居大手門外や東御苑内における当館への来館者動線上に開館時刻前から案内スタッフを配置し、皇居内の安全確保や秩序の維持に努めながら、来館者や東御苑来苑園者等への案内誘導を適切に行い、満足度の向上を図った。									
【定量的評価】 項目		5年度実績	目標値	評価	経年変化	元	2	3	4
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		92.7%	-			-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 10月の移管から11月の開館まで1ヶ月という短期間で、展示作品の安全に配慮しながら来館者を快適に迎える観覧環境を整備した。さらに一部開館の限られた観覧環境の中でも、開館記念展「皇室のみやび」においてスタッフのサービス項目では、第1期91.9%、第2期93.6%、全体の満足度でも、第1期94.3%、第2期93.0%、と高い満足度を得られており、B評価に十分相当するものと判断した。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 一部開館でありアンケートや図録販売スペースの確保が難しい状況下にあっても、アンケートの実施や図録販売等を確実に実施した。8年度の全面開館時にはミュージアムショップなどの設備が整備される予定であり、8年度の全面開館に向けて、さらなる観覧環境の整備を図る。							